

付
録

久万町誌年表

西暦	年号	事	項
六四六	文化二年	大化改新の詔がでて、国郡制がしかれる。	
七〇一	大宝元年	○大宝律令制定される。	
七一〇	和銅三年	○菅生山大宝寺建立。(予陽塵芥集)	
七一三	和銅六年	○都を平城京にうつす。	
七七三	宝龜四年	○諸国に「風土記」の編集を行わせる。	
		○三島神社を大宝寺の鎮守として菅生村に建立。(浮穴見聞録)	
九二七	延長五年	○年代不明であるが、この頃高殿神社建立。	
		『延喜式』が制定される。伊予国一四郡の名が示されている。(宇麻・新居・周敷・桑村・越智・野間・風早・和氣・温泉・久米・伊予・浮穴・宇和・喜多。)	
九三七	承平七年	「倭名類聚抄」ができる。浮穴郡は、井門・拜志・荏原・出部の四郡である。	
一一三六	保延二年	○六月、浮穴郡三島神社を造営する。(河野家記録)	
一一五二	仁平二年	○菅生山大宝寺大火、全山焼失。(大宝寺縁起)	
一一五六	保元元年	○菅生山大宝寺保元年間に後白河天皇御再興、御皇妹を住職とせられ、勅願寺として栄えた。当時は、四八坊あったという。(大宝寺縁起)	
一一八〇	治承四年	○源頼朝の挙兵。	
一二〇五	元久二年	○幕府伊予国御家人三二人の守護職の沙汰を止め、河野通信に統率させる。(吾妻鏡)	

西暦	年号	事	項
一二七二	文永九年	○七月、一遍、浮穴郡菅生の岩屋(岩屋寺)に参籠する。(一遍上人行状図絵第二)	
一二八一	弘安四年	○蒙古再び博多来襲・温泉郡石井郷の河野通有、奮戦する。	
一二八八	正応元年	○一遍、浮穴郡菅生の岩屋寺に詣で、道後の奥谷宝蔵寺に留まる。(一遍上人譜略第十)	
一三三三	元弘三年	○鎌倉幕府ほろぶ。	
一三三六	建武三年	○足利尊氏伊予菅生山衆徒の功を賞し、巨生郷西方地頭職の内を与う。(予州松山日記)	
一四一六	応永二三年	○与州浮穴郡久万山東明神三嶋大明神へ鰐口を奉納する。弥五郎正富願主(碑銘)	
一四四三	嘉吉三年	○菅生山大宝寺へ久米郡田窪、堀内通光鉄製三三灯台を奉納する。(銘)	
一四五四	享徳三年	○井部栄範、大宝寺供養のため宝篋印塔を建てる。(銘)	
一四五五	享徳四年	○明神原露口正慶仁王の木像を菅生山大宝寺に奉納する。(胎内銘)	
一四七二	文明四年	○土岐氏の所領、足利義正の補任状あり、この前後数代の間、光政・頼定・頼清・頼政等の所領。(前田家所藏文書)	
一五二五	大永五年	○四国遍路、伊予路をまわる。(浮土寺厨子墨書銘)	

西暦	年号	事 項
一五三四	天文三年	○大野直義ら、上浮穴郡田渡八幡神社を造営する。(棟札)
一五四一	天文一〇年	○十一月二日、三島宮撰社諏訪社上葺。(大野家系図)
一五四三	天文一三年	○河野氏久万山明神に大除城を築き、土佐長曾我部に備える。大野安芸守直家城主となり利直・直昌三代の居城となる。(河野家譜)
		○大野直家法然寺を再興しようである。おそらく大野家の菩提寺としたのであろう。直家の院号と法然寺の院号とが同じ口稻院となっているので察せられる。
一五四八	天文一七年	○大除城主大野利直、菅生山大宝寺へ梵鐘を寄進する。(現在松山市石手寺にあり。国宝)(銘)
一五五三	天文二二年	○大除城主大野利直、再び兵を起して浮穴郡大熊山城を攻め、ついで平岡氏の花山城を攻める。(予陽河野家譜)
一五六一	永禄四年	○盛利、久万大除城主大野直昌 <small>なしかげ</small> に服従を誓う。(大洲旧記)
一五六五	永禄八年	○久万馬頭寺建立。(法然寺縁起)
一五六八	永禄一一年	○土佐一条の兵、久万山に侵入し、大除城主大野直昌これを撃退する。(予陽河野家譜)
一五七二	元龜三年	○織田信長の将山岡対馬守ら、風早郡に來襲し、大野直昌・土居清良ら防戦する。(予陽河野家譜)
一五七三	天正元年	○大除城主大野直昌の勢力は、重信川より以南浮穴郡喜多郡全般にわたる。(河野家譜・大野家譜)

西暦	年号	事 項
一五七四	天正二年	○予土国境笹ヶ峠において、大除城主大野直昌、土佐長曾我部元親の謀略にあい、多数将兵を失ったがついに撃退する。(河野家譜・大野家譜)
一五八五	天正一三年	○豊臣秀吉の四国征伐。湯築城主河野通直・大除城主大野直昌ら小早川隆景に降る。(河野家譜)
		○大除城・吉番城開城、隆景所領。
一五八七	天正一五年	○河野通直広島島の竹原へ落去、大野直昌も随行する。(河野家譜)
一五八八	天正一六年	○戸田民部少輔勝隆所領(文禄四年まで)
		○戸田九人衆に知行地を与え小田分の不足分を二名村・父野川村・露降村・下野尻で補う。(古今見聞録)
一五八九	天正一七年	○大野直昌広島竹原で歿す。竹原薬師寺に葬る。(大野家譜・位牌)
一五九五	文禄四年	○加藤嘉明所領
一六〇〇	慶長五年	○関が原の戦い。
一六〇〇	慶長五年	○加藤嘉明は家臣の佃十成に久万山六千石を与え統治させる。十成は産業を興し、善政を施す。各神社、寺院へ寄進、造営する。(位牌文)
一六〇六	慶長一一年	○このころ、加藤嘉明はたびたび狩のため久万へ来る
		○法然寺中興第一世再興に努力。(法然寺縁起)
		○下野尻は二名・父野川・露降と共に、藤堂高虎の客臣渡部勘兵衛の所領。ただし、この年から元和元年まで(補任状)

一六二〇	元和 六年	○久万真光寺建立。(法然寺縁起)
一六二五	寛永 二年	○佃十成、久万に万徳山法然寺を建立。(久万町本町) おそらく、規模を大にして再建したものと思われる。(位牌文)
一六二七	寛永 四年	○蒲生忠知所領。
一六三五	寛永一二年	○松平(久松) 定行所領(松山藩) 以後明治まで代々の所領。ただし下野尻・父二峰村は大洲領。
		○藩公定行、宇治の茶の実をとりよせ、久万山に茶の栽培を勧める。(松山叢談)
一六六〇	万治 三年	○六月、久万町村出火、類焼一三六戸(本藩譜) これより三年後寛文三年にも同記事あり。
一六六四	寛文 四年	○『寛文印知集』できる。浮穴郡の内四三か村、高二二、一二〇石三四一。
一六八二	天和 二年	○法然寺現位置(久万古町) に移転新築、山門は旧のまま。(法然寺縁起)
一六八三	天和 三年	○浮穴郡久万山日野浦に初めて地坪行 <small>なまじ</small> われる。(伊予農事大年表)
一六八五	貞亨 二年	○三島神社社殿鳥居等再建(神社記)
一六八八	元禄 元年	○年月不明確、山之内彦左エ門仰西翁入野に渠を堀り水利の便をはかる。ただし、これより三〇年前と思われる記録あり。その他仰西翁は鍋割・露峰切石の難所の岩をけずり交通の便をはかる。(山之内家文書)
一六九六	元禄 九年	○久万町村大火一九〇戸焼失。(某家記)
一六九八	元禄一一年	○山之内仰西歿。久万真光寺に葬る。(墓碑銘)
一七一〇	正徳 元年	○二月、久万町村出火御茶屋並びに民家残らず焼失。家屋一九六戸。(増田家記)

一七二二	正徳 二年	○松山藩の名僧天徳寺一〇世蔵山久万町で生まる。(船草家譜、昌由二男)
一七二四	正徳 四年	○七月、久万町村出火民家一四七戸焼失。(津田家記)
一七一六	享保 元年	○大宝寺中興第一世斉秀和尚大いに寺院復興に努力する。(大宝寺中興歴代伝)
一七二二	享保 七年	○久万山産の人蔘を松山藩より初めて幕府に献上する。(松山叢談)(人蔘はとちばにんじんで薬用)
一七二五	享保一〇年	○高野幸治野尻牛市(当時は馬市)を開く。(碑銘)
一七三二	享保一七年	○大雨、うんかの発生によって大飢饉、餓死者多数。
一七三三	享保一八年	○松山藩家老奥平弾正、故あって久万山へ蟄居仰せつけられる。(はじめ西明神梅木家へ預け、後入野にうつす。)(国士伝、梅木文書)
一七四一	寛保 元年	○三月、久万山百姓一揆、大洲領へ二八〇〇余人逃散する。菅生山大宝寺住職斉秀和尚、百方努力し農民の希望が容れられて解決する。この功によって大宝寺は松山藩の祈願所となり、寺は興隆した。(松山叢談・大宝寺縁起)
		○松山藩家老奥平貞国ら、久万山騒動につき処罰される。(松山叢談)
		○松山藩領界、郡界、並びに一里塚の立木を立石にする。(松山叢談二)
一七四二	寛保 二年	○松山の俳人小倉志山、芭蕉塚を大宝寺境内に建立。この時芭蕉五〇年忌に当たる。(銘)
一七四四	延亨 元年	○小倉志山句集「霜夜塚」京都で刊行、久万の俳人の連句、俳句をおさむ。
一七五一	宝暦 元年	○久万俳人寿風の追悼句集「十夜の霜」を刊行する。

西曆	年号	事	項
一七五九	宝曆九年	○齊秀(非石)示寂(年五九)	
一七八二	天明二年	○この年から天明の大飢饉始まる。(天明七年まで)	
一七八六	天明六年	○久万山直瀬騒動(庄屋等の処置を怨み事起こる)(松山藩譜)	
一七八七	天明七年	○二月、土佐池川紙一揆伊予へ逃散、久万菅生山大宝寺へ約七〇〇名が一月屯集する。大宝寺住職の斡旋努力によって円満解決、農民の希望が容れられた。(土佐庄屋文書)	
一七八八	天明八年	○蔵山寂。(年七七)	
一七九三	寛政五年	○小倉志山の孫蘇郎が芭蕉塚の墨直しを行い、芭蕉百回忌の供養をする。(百済魚文遺稿)	
一七九七	寛政九年	○松山藩久万山に蚕糸業を奨励する。(松山藩会所日記)	
一八〇八	文化五年	○三月、久万町村出火、一〇二戸、他に庵一か寺焼失。(増田家記・三田村秘事録)	
一八一五	文化十二年	○法然寺山門修復(棟札)	
		○四月一日、久万町村と入野村との間に水争いあり。(久万町村の百姓、藩の裁定に服せず、大洲藩に逃散を計り松皮峠を越え、二名村に入る。久万町庄屋雄五郎及組頭雄蔵入牢、松平空通御初入御欲びにて山路松仰付。)(伊予繁農事大年表)	
一八一七	文化十四年	○一〇月六日、久万町村大火一〇〇軒余り焼失。(竹内文書)	
一八二〇	文政三年	○三月、久万町村出火一五〇戸類焼、その他高札場、久	

西曆	年号	事	項
一八二二	文政四年	○三年十一月二日より降り始め、五〇年来の大雪、麦不作で種麦も乏しかった。その他畑作皆不作。(竹内文書)	
一八二五	文政八年	○久万町残らず焼失、たびたびの火災で類焼するため、願い出て瓦葺きとなる。(増田家記)	
一八二六	文政九年	○三月、久万山へ楮苗二万五〇〇〇本植え付け。(松山叢談)	
一八三三	天保四年	○この年から天保の大飢饉始まる。(天保一〇年まで)	
一八三六	天保七年	○大凶作、米価騰貴。	
一八四二	天保十三年	○七月、土佐名野川百姓一揆、久万山菅生山大宝寺へ逃散。(名野川庄屋文書)	
		○このころの代官津田半助、久万山の民を愛し、産業、交通の便をはかり、税を免じ、特に医薬を施し、大いに善政をしく。(銘)	
		○このころより寺子屋始まる。	
一八五一	嘉永四年	○三月二五日、松山藩主松平勝善公、岩屋山及び菅生山に参詣、久万町に宿泊一〇六年目の御回領。(竹内文書)	
		○久万山百姓、元代官津田半助の死をいたみ、松山の山越に頌徳碑を建つ。(碑銘)	
		○嘉永三年以来西明神村農民、庄屋の非違をならし、直訴する。西明神一揆起こる。(愛媛県農業史)	

一八五四	嘉永 七年	○米艦来朝、防禦のため松山藩六〇〇人出動、藩命により久万山七二名出征する。(梅木文書) ○四月一日、藩の命令によって初めて種痘をする。(山之内文書) ○一月四・五・七日、大地震(竹内文書・池内家記) ○このころ松山藩宇治より佐藤善助を雇い入れ、久万山に製茶を勧める。(従来は番茶だけであった。)(梅木家文書)
一八五四	安政 元年	○八月二八日大地震。(竹内文書・池内家記)
一八五五	安政 二年	○西明神庄屋梅木源兵衛、松山藩より人造硝石御用掛を仰せつけられ製造をはじめめる。(梅木文書)
一八五七	安政 四年	○東明神高山寺火災全焼。(縁記)
一八五九	安政 六年	○野尻池竣工。(梅木家文書)
一八六〇	万延 元年	○東明神高山寺再建。
一八六一	文久 元年	○三坂に台場を築き、六斤砲二門を備える。
一八六三	文久 三年	○山之内仰西翁の碑文(西村清臣撰)できる。
一八六四	元治 元年	○徳川慶喜、政権を朝廷に還す。
一八六七	慶応 三年	○久万山庄屋土佐藩に歎願書を出し松山藩に対する寛容の処置を乞う。
一八六八	明治 元年	○土佐藩の先鋒軍松山藩占領のため菅生山大宝寺に数か月宿泊する。 ○久万山庄屋、松山藩に願い出て三上是庵の門人斉院敬和を招請し、漢学を学ぶ。(桂町斉院塾) ○黒住教教会所、明神皿木にできる。(黒住教記) ○この年トコトナヤレ節、さいさい節が流行した。

一八六九	明治 二年	○版籍奉還 旧藩主久松定昭藩知事に任ぜられる。
一八七〇	明治 三年	○一〇月、代官を廃し、郡政司となる。後に治農司と改まる。久万の会所で事務をとる。
一八七一	明治 四年	○廢藩置県 伊予は八県となり、浮穴郡は松山県治下におかれる。 ○八月、久万山百姓は時代の不安動揺と旧藩公への思慕のため(旧藩主留任運動)温泉郡久米まで出動し訴えたが間もなく解散。(久万山騒動)(久万山動揺記)
一八七二	明治 五年	○神仏の混淆を正しく淫祠を除く。 ○この年、松山に初めて人力車走る。 ○学制頒布 松山県を石鉄県とする。
一八七三	明治 六年	○四月九日、庄屋を廃して区長を置く後に戸長となる。 ○久万山は行政区第一七大区となる。 ○太政官布告によって無檀無住の寺は、廃寺あるいは統合された。 ○寺子屋の調査あり、報告する。 ○太陰曆を廃し太陽曆を採用。
一八七四	明治 七年	○徴兵令布告・地租改正 江木康直愛媛県参事となる。 ○石鉄県と神山県を合わせて愛媛県と改める。 ○木版孝経を西明神梅木源平発行。 ○児童就学制定、久万山にも一小区毎に一校設立の命令あり。 ○四月、菅生山大宝寺火災、全山焼失、理覚坊だけ残る。 ○久万郵便局業務を開始する。

西曆	年号	事項
一八七五	明治八年	<ul style="list-style-type: none"> ○行政区第七大区となる。 ○元代官所発売の紫金円（万病解毒剤）を明神村梅木源平他二人で製葉発売。 ○製茶盛んになり、外国輸出品となる。
一八七六	明治九年	<ul style="list-style-type: none"> ○愛媛・香川二県を合わせて愛媛県となる。 ○行政区の変更により久万山は第一四大区となる。 ○磨刀令が出る。
一八七七	明治一〇年	<ul style="list-style-type: none"> ○仰西渠之碑立つ。 ○松山警察署久万分署、旧藩久万会所を庁舎として治安の維持に当たる。
一八七八	明治一一年	<ul style="list-style-type: none"> ○上浮穴郡となる（上浮穴郡を上、下に分け、上に小田郷を加える。） ○郡役所を久方に置く。初代郡長秋山静就任（一四・八） ○戸長役場を置く。
一八七九	明治一二年	<ul style="list-style-type: none"> ○第一回県会開かれる。
一八八〇	明治一三年	<ul style="list-style-type: none"> ○久万山の茶年産約一〇万斤を製す。 ○久万郵便局で為替業務を開始。 ○久万警察分署、日ノ浦分署を統合し上浮穴全域を統轄。
一八八一	明治一四年	<ul style="list-style-type: none"> ○久万郵便局で貯金業務を開始。 ○四月、上浮穴郡第一回農事会開催され、郡内各村より出席、農事の振興をはかる。 ○九月、郡長松垣伸就任（一七、一八）

西曆	年号	事項
一八八二	明治一五年	<ul style="list-style-type: none"> ○陸稲の種籾を県が茨城・栃木より購入し、郡内へ配布奨励する。 ○県小学校教則を制定する。
一八八三	明治一六年	<ul style="list-style-type: none"> ○久万山の製茶は従来釜製であったが、漸次焙炉製に改める。 ○高殿神社社殿建替。
一八八四	明治一七年	<ul style="list-style-type: none"> ○このころより久万の家庭でランプを使用し始める。 ○松山歩兵第二聯隊設置。
一八八五	明治一八年	<ul style="list-style-type: none"> ○九月、齊院敬和歿、久万真光寺に葬る。郡医として藤井文郁を招く。 ○久万山民積米金維持規則を作り、久万山共有凶荒予備組合と称す。（二四ヶ村） ○このころより「みつまた」を栽培。
一八八六	明治一九年	<ul style="list-style-type: none"> ○四国新道（現在の国道三三号線）開さく計画を内務省に提出。 ○各学校を簡易小学校と改名。 ○久万分署昇格して久万警察署となる。 ○三月二八日、松山より高知市へ国道手始につき総門にて相撲興行、山ノ下、三坂にて花火をあげる。 ○四国四県知事登山あり。（秋本富十郎日記） ○七月七日〜八月二日まで四六日、大日照 ○九月一〇日、大暴風雨、出水、菅生村一二戸倒壊。（秋本富十郎日記） ○郡立久万高等小学校を久方に創立。

一八八八	明治二二年	○松山区裁判所久万出張所を置く。
一八八九	明治二二年	○大日本帝国憲法発布
		○市・町・村制実施
一八八九	明治二二年	○久万・野尻村と合併（戸長田中知微）。
一八九〇	明治二三年	○一月、東明神村・西明神村・入野村・三村合併して明神村。父野川村・二名村・露峰村合併して父二峰村となり、畑野川村・直瀬村合併し川瀬村誕生。
		○この時、久万町明神村相互に飛地の交換をする。
		○久万凶荒予備組合を町村組合とする。
		○八月一三日、稲害虫駆除のため、三島神社神輿村中渡御。（秋本富士郎日記）
		○郡に郡視学、町村に学務委員を置く。
		○八月、正岡子規、藤野古白、大原、歌原四人久万山へ来る。橋長一泊、一九日竹谷一泊、二〇日岩屋寺参詣、久万へ帰り一泊、二一日帰宅。（友人子規）
		○教育勅語渙発
一八九一	明治二四年	○久万凶荒予備組合、種牛六頭を購入し、各町村へ配置する。
		○簡易小学校を尋常小学校と改称、東明神・西明神・久万・野尻・菅生尋常小学校となる。
		○郡立久万高等小学校を廃止し、一四か村組合立久万高等小学校となる。
一八九二	明治二五年	○久万警察署庁舎新築。（久万住安町）
		○明神村に駐在所置かれる。
		○久万郵便局で電信、小包、電信為替業務を開始。
		○四国鉄道部伊予教会に上浮穴部会を設置して予土横
		断鉄道促進をはかる。
		○八月、予土横断道路愛媛県担当区竣工し、勝間田知事、松垣郡長関係者多数出席三坂峠で盛大な完工式行われる。（史談一八七号）
		○この年、郡内に農会が設置された。
		○久万融通株式会社創立。（銀行のはじめ）
		○井部栄範藍綬褒賞を受ける。（公共事業）
		○法然寺本堂新築。
		○日清戦争起こる。（二八年）松山聯隊出征
		○七月、郡長加藤純次郎就任（三三、三三）
		○下関条約調印。
		○天理教久万分教所できる。（入野）
		○上浮穴郡蚕業組合設立される。
		○伊予鉄道松山〜森松開通。
		○六月、久万商工会設立。
		○三坂〜久万間客馬車走る。
		○六月、久万読書会できる。
		○明神尚歯会発足。
		○久万高等小学校五ヶ村組合となる。
		○四月、郡長篠原邦貴就任（三四、五）
		○五月、笛ヶ滝公園設置。
		○八月二〇日、久万町制をしく。
		○初代町長桜井誠政就任（三七、一）
		○久万融通株式会社久万銀行となる。
		○久万青年会発足。
		○郡役所新築（住安町）
一九〇一	明治三四年	
一九〇〇	明治三三年	
一八九九	明治三二年	
一八九八	明治三一年	
一八九七	明治三〇年	
一八九六	明治二九年	
一八九五	明治二八年	
一八九四	明治二七年	
一八九三	明治二六年	

西曆	年号	事項
一九〇二	明治三十五年	<ul style="list-style-type: none"> ○六月、郡長三浦一志就任（〜三九、二） ○この年、田中正造が足尾鉾毒問題を天皇に直訴した。 ○一月三〇日、日英同盟が成り、ロンドンで調印式が行われた。 ○一〇月久万町役場火災全焼他家一戸。 ○自動車、神戸に走り始める。 ○この頃より新年対礼会始まる。 ○このころ久万地区に稲の正条植えが導入される。 ○この年、国定教科書制度が成立した。 ○日露戦争。（〜三八）
一九〇三	明治三十六年	<ul style="list-style-type: none"> ○二月、町長船田源松就任（〜大二、四） ○西明神尋常小学校入野分教場設置。 ○天理教久万布教所新築移転（久万曙町） ○このころはじめて久万で自転車を見る。 ○ポーツマス条約調印。 ○このころより洋種馬入りは始める。（これまでは乃万馬） ○この年、五月二七日日本海海戦があった。 ○在郷軍人会各分会発足。 ○上浮穴郡に農事奨励金下附規程を設け、町村農会の事業を援助する。 ○三月、郡長茂嶋太郎就任（S四〇、四） ○大野が原陸軍演習地となり、落合より大野が原まで砲車道できる。兵舎一四棟建つ。（安藤謙介知事）
一九〇四	明治三十七年	
一九〇五	明治三十八年	
一九〇六	明治三十九年	

西曆	年号	事項
一九〇七	明治四〇年	<ul style="list-style-type: none"> ○野尻尋常小学校、久万尋常小学校へ統合。 ○明神村製糸組合設立。 ○上浮穴郡畜産組合設立され、野尻牛市も大いに発展する。 ○五月、郡長松田虎次郎就任（〜四五、一） ○落出に発電所新設。 ○この年三月、小学校の義務教育が六年となる。 ○久万尋常小学校を現位置（野尻）に移転新築。 ○久万高等小学校を統合し、久万尋常高等小学校と改称、明神・菅生村高等科生を委託授業する。 ○義務教育延長（六年） ○郡立準教員養成所を久万校に附設。 ○一〇月二六日、伊藤博文ハルビン駅で暗殺される。 ○各村に青年団発足。 ○高殿神社東明神三島神社を合祀。 ○警察電話松山〜久万間開通。 ○郡内各町村郷土誌を編集する。 ○八月二二日、韓国併合に関する日韓条約調印。 ○上浮穴郡に小学校本科正教員養成学資補助規定を設ける。 ○「ハタ、タコ、コマ」国定教科書できる。 ○久万町消防組結成。 ○久万製糸株式会社創立。 ○四月、久万住安町火災、警察その他二三戸全焼、罹
一九〇八	明治四一年	
一九〇九	明治四二年	
一九一〇	明治四三年	
一九一一	明治四四年	
一九一二	明治四五年 大正元年	

一九一五	大正四年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災者七六八。 ○ 七月三〇日、大正と改元された。 ○ 久万警察署新築。 ○ 久万青年団里程標を各所に建てて。 ○ 二月、郡長荒田統之助就任（大正六、八） ○ 上浮穴郡に産婆看護婦養成規程を設け、養成につとめる。 ○ 久万へ踏鉄技術入る。 ○ この年、清朝が滅亡し中華民国となる。七月六日から開催されたストックホルムのオリンピックに日本選手が初めて参加した。 ○ 久万実業補習学校を久万校に附設。 ○ 五月、町長高橋精一郎就任（S一、一〇） ○ 上浮穴郡に模範桑園補助規定を設け、桑園改良を奨励する。 ○ この年、九月一三日乃木大将夫妻殉死。十一月二二日徳川幕府最後の將軍徳川慶喜死去。 ○ 久万町信用組合設立。 ○ 明神信用購買販売利用組合設立。 ○ 久万造林会社創立。 ○ 井部栄範歿。（年七三） ○ 第一次世界大戦（〜七）始まる。 ○ この年、八月一五日パナマ運河開通した。一二月一八日には東京駅が開業した。 ○ 久万電気株式会社創立。（久万電灯のはじめ、資本金一万円）
一九一三	大正二年	
一九一四	大正三年	
一九一六	大正五年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 久万小林区庁舎新築。 ○ 四月上浮穴郡に製茶奨励金下附規程を設け、共同製茶組合の設立、実業教師を備入れる。 ○ 上浮穴郡に共同養蚕組合補助規程を設け、組合の設立、教師を備入れ養蚕を奨励する。 ○ 久万郵便局で簡易保険業務開始。 ○ この年、一月一二日大隈首相暗殺未遂事件起こる。 ○ 四月、東明神、西明神両小学校を統合し明神小学校と改称、現位置に移転新築。 ○ 町立実科女学校を久万校に附設（大正九年廃止補習学校女子部） ○ 町役場新築（住安町） ○ 金光教久万教会所出来る。（曙町） ○ 火葬場を設置（緑が丘） ○ 九月、郡長山下雅就任（〜八、六） ○ この年ロシアに二月革命により、ニコライ二世が退位しロマノフ王朝が滅亡、一〇月革命により、ソビエト政権が成立した。 ○ 四月、各村小学校に高等科を併置し、尋常高等小学校と改称。 ○ 四月「ハナ、ハト、マメ、マス」の教科書できる。 ○ 流行性感冒（大正かぜ）流行死亡者多く、翌年へつづく。 ○ 大日本婦人矯風会松山支部結成 ○ シベリア出兵。 ○ この年八月三日、富山県に米騒動起こり、全国に波
一九一七	大正六年	
一九一八	大正七年	

西暦	年号	事項
一九一九	大正八年	<p>及した。九月には原敬内閣誕生。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一月一日、電気事業町営となる。 ○七月、郡長足達儀国就任（〜一二） ○一二月、郡長古川栄一就任（〜一二、四） ○この年朝鮮各地で独立運動起こる。 ○七月一六日、電話開通（加入者三二） ○久万索道株式会社創立（久万〜森松間） ○この年国際連盟が発足した。また上野公園で日本最初のメーデーが行われた。 ○キリスト教久万伝道所できる。（住安町） ○第一回国勢調査（久万世帯数七六九、人口三〇四〇） ○このころより馬の人工授精はじまる。 ○この年、一月四日原首相東京駅で刺殺される。 ○中央自動車株式会社久万〜松山間定期開通。 ○菅生山大宝寺本堂新築落慶。 ○金光教久万教会所新築（古町） ○五月、郡長国西藤三郎就任（〜一二、五） ○上浮穴郡雑穀採種園開設（三坂） ○愛媛県水平社本部が誕生し、各地に支部が結成された。 ○郡制廃止 ○関東大震災死者九万一八〇二人、行方不明四万二二五七人 ○このころより久万にトラック走り始める。

西暦	年号	事項
一九二四	大正一三年	<ul style="list-style-type: none"> ○六月、郡長武智忠幸就任（〜一三、一二） ○久万読書会を久万校に移す。 ○久万町・菅生村と合併。（久万町長高橋精一郎、菅生村長高井寛和） ○菅生尋常小学校廃校となる。 ○久万校火災四教室一棟焼失する。 ○一月、元郡長松垣伸俊、遺言により久万町真光寺に葬る。「埋骨注心血地」の墓碑並びに三坂に頌徳碑建つ。（年七五） ○久万でスキー始まる。 ○一二月、郡長武田嘉四郎就任（S一五、五） ○久万校八教室二階建て一棟新築。 ○ラジオ放送開始。 ○明神にボーイスカウト結成。 ○国勢調査（世帯数八〇七、人口三二七二） ○この年、普通選挙法が公布され、二五歳以上の男子に選挙権が与えられた。 ○郡役所廃止。 ○久万青年訓練所を久万校に附設。 ○町役場を郡役所跡へ移転。 ○久万消防組ガソリンポンプ一台備え付け。 ○一二月二五日、昭和と改元された。 ○久万校講堂兼雨天体操場新築。 ○明神校本館二階建一棟新築。
一九二五	大正一四年	
一九二六	大正一五年 昭和元年	
一九二七	昭和二年	

一九二八	昭和三年	<ul style="list-style-type: none"> ○久万体育会設立。 ○松山土木久万詰所、久万土木出張所となる。 ○この年、金融恐慌始まる。また、山東出兵があった。また、名古屋での陸軍大演習の観兵式で北原泰作二等兵が軍隊内の部落差別について直訴した。 ○久万町青年会館新築。(本町) ○久万読書会を青年会館に移す。 ○この年、六月に奉天で張作霖の爆死事件があり、一月には蒋介石が中国国民政府の主席に就任した。 ○一月一〇日即位の大礼があり、町内に万国旗が初めて張られた。また、アムステルダム五輪で三段跳びの織田幹雄らが金メダル獲得。 ○久万小学校舎校地拡張一〇教室、二階建一棟新築。 ○この年、世界恐慌が始まった。 ○国勢調査(久万世帯数八四一、人口三四六七) ○この年、台湾で高砂族が抗日暴動を起こした。 ○満州事変起る。 ○この年、清水トンネルが開通した。 ○久万町消防組ガソリンポンプ二台備え付け。 ○高冷地原蚕種飼育所を三坂に設置。 ○大宝寺境内の芭蕉塚保存会発会墨直しを行い盛大に供養された。(今村完道) ○五・一五事件 ○第一次上海事変起り松山連隊上海に出征。(戦死七名) ○この年、大日本国防婦人会が発足した。また、満州
------	------	--

一九三三	昭和八年	<ul style="list-style-type: none"> ○国際連盟脱退。 ○この年、小学国語読本にサクラが登場した。 ○久万採種園を高冷地試験地と改称。 ○松山久万間に国鉄バスが開通。 ○二月明神大橋竣工。 ○この年、室戸台風が大阪に上陸し、死者行方不明者三〇六六人の被害があった。また、プロ野球大日本野球倶楽部(今の巨人軍)が創立した。 ○久万佐川間に国鉄バス開通。 ○この年美濃部達吉が天皇機関説をとらえた。 ○二・二六事件。 ○キリスト教会久万教会堂建つ。(住安町) ○一〇月、町長井部栄基就任(一八、一一) ○日独伊防共協定調印。 ○この年、ベルリン五輪で前畑秀子活躍。 ○日華事変起る。(太平洋戦争に拡大) ○五月、総門橋竣工。 ○この年、パーマネットはやめようの声おこる。また千人針や慰問袋づくりがはじまった。 ○国家総動員法公布 ○この年、衣料が切符制となり、金物類には代用品が使われ、スフが出はじめた。また、勤労働員も行われた。防空訓練も始まった。 ○四月、消防組解散、警防団結成。 ○高冷地試験地を県立農事指導所久万分場と改称。
一九三三	昭和八年	
一九三六	昭和十一年	
一九三五	昭和十〇年	
一九三九	昭和十四年	

西曆	年号	事項
一九四〇	昭和十五年	<ul style="list-style-type: none"> ○この年、鉄類の回収がはじまり、パーマネントが廃止された。双葉山の69連勝がストップした年でもある。食糧が配給制となった。木炭バスも走りはじめた。 ○四月、県立上浮穴農林学校を久万町に創立。 ○久万銀行、松山五二銀行と合併五二銀行久万支店となる。 ○元町長高橋精一郎頌徳碑建つ。(宙が滝公園) ○久万運送株式会社創立。 ○紀元二千六百年祭行われる。 ○大政翼賛会発足。 ○国勢調査(久万町世帯数一二三〇、人口五二一八) ○この年、節米が叫ばれ「ぜいたくは敵だ」といわれた。また「八紘一宇」のことばも流行した。 ○四月、国民学校令によって尋常高等小学校を国民学校と改称 ○太平洋戦争起こる。(一〇年) ○四月「アカイ、アカイ、アサヒ、アサヒ」教科書できる。 ○松山五二、予州、今治商業銀行合併し、伊予合同銀行久万支店となる。 ○久万運送合併し、中予運送久万営業所となる。 ○久万青年学校独立する。 ○久万町森林組合設立された。

西曆	年号	事項
一九四二	昭和十七年	<ul style="list-style-type: none"> ○この年、自家用車へのガソリン使用が禁止される。また、防空壕が各地に作られた。 ○七月、地方事務所を久万町に置く。(住安町) ○地方事務所内に視学室置かれる。 ○一月、久万保健所を久万町に置く。(曙町) ○明神森林組合設立。 ○みそ、しょうゆが配給制になり、「欲しがりません勝つまでは！」ということばが流行した。関門トンネル開通。 ○三月、町営電気事業を四国配電に譲渡。 ○九月一日、久万町・明神村と合併。(久万町長井部栄基、明神村長宇都宮照蔵) ○伊予鉄道が三共自動車を合併。 ○下野尻馬酔谷、菅生線林道完成。 ○一月、町長、八木菊次郎就任(一、一一) ○この年、学徒動員や学童の疎開があり、山本五十六元帥が戦死し、アッツ島で玉砕ということがあった。また「撃ちてしまん」という話が流行した。 ○明神・久万、両信用組合統合され、久万町農業会となる。 ○伊予鉄バス久万営業所置かれ、郡内各路線できる。(曙町) ○中野村さいこの林道完成。 ○松山歩兵第二連隊一〇二四名、沖縄本島東風平村
一九四三	昭和十八年	
一九四四	昭和十九年	

一九四五	昭和二〇年	<p>で連隊旗を焼き全滅する。</p> <p>○この年、サイパン島で玉砕があり、国民総武装ということで竹やり訓練が本格化した。また、神風特攻隊が生まれ、人間魚雷回天も出撃した。</p> <p>○八月六日、原子爆弾広島市に投下。</p> <p>○八月九日、長崎に原爆投下される。</p> <p>○八月十五日、ポツダム宣言受諾終戦となる。</p> <p>○太平洋戦争終わる。</p> <p>○農地調整法改正公布（第一次農地改革実施されず）</p> <p>○この年、硫黄島で玉砕のあと、沖縄では「ひめゆり部隊」の自決があった。また、米国の日本駐留が始まった。（一〇月一日）封切された松竹映画「そよ風」の主題歌「リンゴの歌」がうたわれた。</p>
一九四六	昭和二二年	<p>○南海大地震（一一、二二）</p> <p>○復員引揚者続々帰町（二〇、二一）</p> <p>○この年、天皇が人間宣言をされ、日本国憲法が発布された。また、インフレと食糧不足は深刻だった。極東軍事裁判なるものも開かれた。</p>
一九四七	昭和二三年	<p>○五月日本国憲法施行。</p> <p>○新学制施行。</p> <p>○四月、各町村中学校創立される。</p> <p>○四月、国民学校を小学校と改称する。</p> <p>○四月、国民健康保険組合で、厚生病院創立される。（曙町）</p> <p>○三月、農地法による土地買収開始。</p> <p>○警防団解散し、消防団結成。</p>
一九四八	昭和二三年	<p>○各校PTA発足。</p> <p>○久万簡易裁判所久万検察庁を久万に置く。（住安町）</p> <p>○区裁判所出張所を松山司法事務局久万出張所と改称（住安町）</p> <p>○四月、町長高野義唯就任（一三、七）</p> <p>○方面委員、民生委員と改称する。</p> <p>○学務委員廃止され、久万町教育協議会発足した。</p> <p>○国勢調査（久万町世帯数一六二七、人口七四八〇）</p> <p>○植林盛んに行われ、これより年々六〇〜七〇万本植付した。</p> <p>○四月、町長選挙、町会議員選挙行われる。</p> <p>○この年、赤い羽根運動始まる。</p> <p>○文章の横書き始まる。</p> <p>○小学校でのローマ字教育始まる。</p> <p>○ララ物質の放出により、週二回の学校ミルク給食始まる。</p> <p>○二、一のゼネストはマッカーサーの命令で中止となる。</p> <p>○アメリカンヒール（ハイヒール）出回りだす。</p> <p>○ストリップに輪タク、ツノハンドルのオート三輪が出現した。</p> <p>○共同募金始まる。</p> <p>○ペニシリンが国内で生産されはじめた。</p> <p>○四月、新学制により農林学校が、上浮穴高等学校となる。</p> <p>○久万厚生病院町営となる。</p>

西暦	年号	事項
		<ul style="list-style-type: none"> ○各地区農業会解散し明神・久万・父二峰・畑野川・川瀬農業協同組合が設立された。 ○下畑野川公民館建設される。 ○視学室独立して上浮穴教育事務所となる。 ○七月、町長選挙が行われる。 ○七月、町長井部栄治就任（二六、三） ○九月火災東明神一戸、二月久万本町一戸。 ○県に教育委員会が発足した。 ○サマータイム始まる。 ○ボールペンが使われだす。 ○自治体警察誕生。 ○NHKのど自慢始まる。 ○男女共学となる。 ○母子手帳の配布始まる。 ○五銭札出回る。 ○セロテープ出回る。 ○優生保護法公布された。 ○全国高等学校野球選手権大会始まる。 ○コア・カリキュラムという語が出現する。 ○極東国際軍事裁判が行われた。 ○競輪、パチンコが始まる。 ○小学校でローマ字教育始まる。 ○国連で世界人権宣言が採択された。 ○全国交通安全週間始まる。

西暦	年号	事項
一九四九	昭和二十四年	<ul style="list-style-type: none"> ○五月、久万中学校一二教室二階建一棟新築する。 ○六月、司法事務局を松山地方事務局久万出張所と改称する。 ○上畑野川公民館新築された。 ○ソ連からの引き揚げ始まる。 ○家庭裁判所開設する。 ○成人式始まる。 ○テレビの実験が行われた。 ○一一九番開設される。 ○当用漢字字体発表される。 ○満年齢使用が制定された。 ○古橋広之進、橋爪四郎水泳で大活躍した。 ○輪タクが流行した。 ○湯川秀樹ノーベル物理学賞受賞する。 ○お年玉つき年賀はがき発売が始まった。 ○二月、明神小学校講堂兼雨天体操場新築する。 ○四月、元三菱本社理事長船田一雄歿、明神の墓地に葬る。 ○五月、久万中学校二階建本館新築。 ○八月、本年より臨海学校実施。 ○一〇月、仰西渠史跡として県より指定される。 ○上直瀬、下直瀬公民館発足。 ○久万町有林功労者として井部栄範、船田源松、高橋精一郎、正岡慶三、大野金作の頌徳碑建つ。（久万中

学校庭)

- 国勢調査（久万町世帯数一七〇四、人口七五一一）
- 千円札が発行された。
- 朝鮮戦争が始まった。
- 警察予備隊発足する。
- 地方公務員法公布される。
- ナイロンストッキング流行する。
- 暑中見舞いのはがき発売。
- バトカーの配備始まる。
- プロ野球公式戦ナイターが始まる。
- ストレプトマイシンが発売された。
- 学校給食のパンによる完全給食となる。
- テープレコーダー発売される。
- プラスチック玩具出現。
- 胃カメラの使用が始まる。
- サンフランシスコ平和条約、締結調印。
- 日米安全保障条約調印。
- ルース台風。
- 中学校本年より修学旅行実施。
- 伊予合同銀行を伊予銀行久万支店と改名。
- 四月、町長、町会議員選挙。
- 八月、町長高野義唯就任（一七、七）
- 火災により西明神公会堂が焼失した。
- 民間放送が開始された。
- 川瀬公民館発足。川瀬地域の四公民館を村営として運営する。

一九五二
昭和二十七年

- 勤務評定制度ができた。
- コンタクトレンズの国産化が実現した。
- LPレコードが発売された。
- 児童憲章が制定された。
- マッカーサーが日本人の文化程度は一二歳の少年と発言する。
- 朝鮮戦争休戦となる。
- 五〇円札発行される。
- 対日講和条約・日米安全保障条約調印。
- 三月、町制五〇周年記念祭挙行。
- 八月、町長高岡貞一郎就任（一三〇、四）
- 一〇月、教育委員選挙が実施された。
- 一月、久万町教育委員会発足する。
- 川瀬青年学級が専任職員配置四学級として発足。
- 消防団に小型動力ポンプ三台備え付。
- 久万電報電話局開設。
- 上浮穴会館建つ。（上野尻）
- 四月、明神青年学級発足。
- 西明神植の川林道完成。
- 一二月、国道三三三号線一級国道になる。
- サマータイム廃止される。
- ダイヤル式の電話機本格的に採用。
- 十勝沖地震発生。
- 4Hクラブの活動が活発。
- ポータブルラジオの先駆的なものとしてプラスチックラジオが出現。

西曆	年号	事項
一九五三	昭和二八年	<ul style="list-style-type: none"> ○砂糖の自由販売。 ○マジックインキ出現。 ○マンガ「鉄腕アトム」連載。 ○連続ラジオドラマ「君の名は」の放送開始。 ○母の日がスタートした。 ○戦後のオリンピック、ヘルシンキでの大会に初参加。 ○としよりの日スタート。(三八年から老人の日、四一年から敬老の日となる) ○PTA結成。 ○魚肉ソーセージ出現。 ○毛糸編機発売。 ○戦後初のアマゾン移民がはじまった。 ○松山信用金庫久万支店、愛媛相互銀行久万支店できる。 ○明神幼児学級発足、上浮穴高等学校に林業科を新設。 ○宇都宮音吉藍綬褒章を受く。(民生事業) ○公営住宅四戸建つ。 ○一〇月、火災曙町七戸。 ○久万明神農村青壮年会議、三坂国道筋に桜苗木を植え、年々補植。 ○川瀬婦人学級発足四公民館文部省指定となる。 ○NHK、初のテレビ放送(東京地域のみ)開始。 ○道後動物園開園。 ○噴流式電気洗濯機発売。

西曆	年号	事項
一九五四	昭和二九年	<ul style="list-style-type: none"> ○蛍光灯出現。 ○バキュームカー出現。 ○中国からの帰還。 ○粉末ジュース発売。 ○一円未満の通貨廃止。 ○小・中・高校に図書館の設置義務づけられる。 ○町村合併促進法公布。 ○シベリア引き揚げ再開。 ○奄美群島復帰。 ○井部栄範頌徳碑建つ。(久万公民館前) ○三月、久万民芸でんこ人形久万中学校で誕生意匠登録を受ける。 ○四月、久万、野尻両婦人学級発足。 ○七月、上浮穴郡町村組合立養老院開設。(菅生) ○大除城主大野山城守直昌位牌広島県竹原町より久万町へ帰る。 ○九月、久万、野尻幼児学級発足。 ○久万町内の道路舗装。(年々延長) ○一二月、明神小学校八教室、二階建一棟新築。 ○浮穴史談会創刊号出る。(会長宇都宮音吉) ○キリスト教会堂並保育園舎新築移転。(福井町) ○久万造林会社造林会館を新築し、久万町へ寄贈。(久万公民館) ○久万警察署新築落成。(住安町)

一九五五

昭和三〇年

- 東明神樅の木林道完成。
- プロレスの国際試合が行われた。(史上初)
- 第五福竜丸「死の灰」を浴びる。
- ビタミン剤「アリナミン」発売。
- しいのみ学園開園。
- 美容体操の放映開始。
- 放射能を含んだ雨が日本各地に降る。
- 伊予鉄「坊ちゃん列車」姿消す。
- 愛大農学部発足。
- 自衛隊発足。
- 人間ドック開設。
- ジクザグミシン発売。
- 怪獣映画「ゴジラ」誕生。
- 少年自衛隊員の募集開始。
- 久万町公民館活動発足。(明神、久万、野尻分館)
- 四月、町長、町会議員、教育委員選挙。
- 五月、町長相原芳太就任。(三三四、三三)
- 上水道できる。
- 一月、久万保育園設立。(久万キリスト教会公益事業)
- 久万小学校四教室二階建増築。
- 宮之前三島橋竣工。
- 消防団に三輪自動車ポンプ一台小型動力ポンプ二台備付。
- 公営住宅一〇戸建つ。
- 西明神、栄谷林道完成。

一九五六

昭和三二年

- 県機構改革により地方事務所を廃し、財務、農林、福祉、土木各事務所出来る。教育事務所を廃し、県教委上浮穴出張所となる。
- 国勢調査。(久万町世帯数一六八五、人口七六六一)
- 伊予銀行久万支店六〇〇万円事件起こる。
- 天理教久万分教会新築落成。
- 久万音頭できる。
- 火災一月久万本町四戸焼失。
- 初めて人間国宝を指定する。
- 宇高連絡船「紫雲丸」沈没。
- トランジスタラジオ発売。
- 森永ひ素ミルク事件発生。
- 南極大陸基地建設。
- 経口避妊薬普及しはじめる。
- リコービー発売。
- 大漢和辞典「諸橋轍次著」発行される。
- ヘップサンダル登場。
- 自動炊飯器発売。
- 赤電話登場。
- 久万野尻青年学級発足。
- 久万小学校に二五メートルプール新設。
- 久万中学校体育館兼講堂並に音楽室新築、並びに運動場観覧スタンド国旗掲揚台新設。
- 教育委員会法改正、委員任命制となる。
- 消防団に小型動力ポンプ三台備え付。
- 公営住宅建つ。久万二〇戸、川瀬二〇戸。

西暦	年号	事項
一九五七	昭和三二年	<ul style="list-style-type: none"> ○日ソ国交再開。 ○国際連合加入。 ○川瀬村新農村建設事業実施。 ○売春防止法公布。 ○教職員に勤務評定実施。 ○自動巻腕時計登場。 ○中国残留孤児の親探し運動開始。 ○遠心脱水洗濯機登場。 ○水俣病発生。 ○大学日米親善野球始まる。 ○学校安全会発足。 ○広島原爆病院開院。 ○初めて全国学力調査が実施された。 ○カップロケット第一号発射。 ○人形峠でウラン鉱発見。 ○ソ連からの復員終了。 ○大宅壮一が一億総白痴化とテレビの娯楽番組を批判。 ○四月、県立図書館上浮穴分館を久万町に置く。(久万公民館) ○四月、大宝寺の仁王堂総門落慶。 ○町有林を伐採し、その代金の一部を各部落へ還元する。 ○八月、明神小学校に二五メートルプール新設。 ○九月、明神公民館新築。

西暦	年号	事項
一九五八	昭和三三年	<ul style="list-style-type: none"> ○川瀬村公民館文部省表彰。 ○明神地区の地域放送施設設置。 ○九月、久万小学校講堂改修。 ○十一月、明神小学校給食開始。(郡内ではじめて) ○十一月、教員勤務評定問題紛争起こる。 ○地域電話開通。(モミの木・ケヤキ・中ノ村) ○各地域の町道、農道改修。 ○舗装道路延長。(藤ノ棚、下野尻) ○このころ久万町へテレビ入る。 ○一月四日、ソ連、人工衛星打上げに成功。 ○一月三十一日、米第一号人工衛星打上げに成功。 ○百円銀貨発行。 ○東海村に原子の火がともる。 ○電機ポット発売。 ○盲導犬第一号登場。 ○五千円札発行。 ○五月衆議院議員選挙。 ○七月、文部省学習指導要領改正発表。 ○八月、道徳教育義務化のため施行規則改正、新学期より週一時間実施。 ○一〇月、鹿之川ダム完成水始式挙行(工費四〇億円) ○一二月、一万円札発行。 ○川瀬地区有線放送施設完成。 ○ガス自動炊飯器登場。

○ロカビリー登場。

○関門トンネル開通。

○インスタントラーメン発売。

○折りたたみ傘大流行。

○缶ビール登場。

○家庭用アルミはく登場。

○フラフープ流行。

○プラモデル登場。

○カッターナイフ発売。

○南海テレビ放送開始。

○久万地方四〇年ぶりの大雪。

○一月、国民健康保険法、メートル法施行。

○一月、愛媛県知事選挙行われ久松定武当選。(三選)

○三月三十一日、久万町・川瀬村・父二峰村・榎谷合併し、新久万町誕生(初代町長日野泰就任)

○四月、皇太子殿下結婚される。

○一月、国民年金法施行される。

○カラーテレビ受像機発表。

○五〇円ニッケル貨発行。

○ピンク電話登場。

○カミナリ族出現。

○「ルナ2号」初の月面到着。

○伊勢湾台風上陸。

○ホームヘルパー登場。

○スモッグ出現。

○六月、久万町社会福祉協議会できる。

一九六〇

昭和三五年

○七月、国鉄三等廃止。

○九月一日、カラーテレビ放送開始される。

○黄色い傘使用始まる。

○農業用四輪トラクター出現。

○家つき、カーつき、ババ抜き用語登場。

○ダッコちゃんブームにわく。

○保温装置付炊飯器登場。

○個人タクシー出現。

○小児麻痺児治療に鉄の肺が使われる。

○赤外線健康コタツ誕生。

○一〇月一五、一六、一七日美川村上黒岩岩陰遺跡発掘され、人骨、骨角器等出土。縄文早期八〇〇〇〜

一万年前のものと分り貴重な遺跡となる。

○一月三、四、五日、久万町笛ヶ滝公園馬頭寺遺跡発掘調査実施、石簇石斧など縄文後期晩期の土器出土。約三〇〇〇年前の遺跡である。

○三坂に無線中継所できる。

○ソ連で世界初の有人宇宙飛行。

○不快指数という語が出現。

○レジャーという語登場。

○小児麻痺生ワクチン投与始まる。

○農村構造改善事業始まる。

○愛知用水完成。

○エレキギター、ビアニカ出現。

○タコグラフが使用されだす。

○二月一日、東京常住人口一〇〇〇万人を突破する。

一九六二

一九六二

昭和三七年

西暦	年号	事項
一九六三	昭和三八年	<ul style="list-style-type: none"> ○二月二〇日、米・人間衛星船ケープカナベラルから発射され、グレン中佐のカプセルは地球三周の後大西洋上に着水・四時間五六分の記録をたてる。 ○九月、国産第一号、研究用原子炉に点火。 ○一二月、上浮穴郡車両数原付、軽三、軽四輪車三五〇〇台、普通大型車五五〇台となる。 ○新久万町役場鉄筋二階建、久万町大字久万町曙町にできる。(約七〇〇万円) ○林業総合調査、愛媛大学の協力で実施、二か年におよぶ。 ○コーラ自動販売機出現。 ○義務教育諸学校の教科用図書無償となる。 ○児童扶養手当の支給始まる。 ○東海村に「原子力の火」ともる。 ○光化学スモッグ発生。 ○サリドマイド剤販売停止。 ○一月大晦日より降りはじめた雪は次々と寒波来襲で一月二五日には二メートルに近い大雪となり、バス不通難渋し、森林の損害甚大、八〇年来の大雪という。 ○一月、県知事選行われ久松定武当選。(四選) ○四月、町長、町議選挙行われ、日野泰町長当選。(再選) ○七月、上浮穴高校体育館落成する。(二八〇坪)(校)

西暦	年号	事項
一九六四	昭和三九年	<ul style="list-style-type: none"> ○長有吉菊一) ○七月、老人福祉法制定。 ○カギツ子登場。 ○通学路が設定される。 ○三ちゃん農業という語が流行。 ○名神高速道路開通。 ○パトンガール登場。 ○紙オムツ出現。 ○新千円札発行。 ○二月、面河ダム竣工。(九〇戸水没) ○三月、伊予鉄バス快速便でき、松山く久万を通うようになる。 ○四月、落合トンネル開通、諸車通行をはじめる。 ○九月、オリンピック東京大会聖火、久万・美川・柳谷を経て、高知に入り沿道人出多し。 ○一〇月、東京オリンピック大会開会、盛大に終了する。(二四日閉会、久万町出身片山美佐子出場する) ○一〇月一日、東海道新幹線、営業を開始する。 ○フランス国外で初めての「ミロのビーナス」展が上野で始まる。 ○外国人力士「高見山」高砂部屋入門。 ○ポップアップ式ティッシュペーパー発売。 ○四月、久万町農協合併し、久万町農業協同組合となり初代組合長田中執就任。
一九六五	昭和四〇年	

○四月、石鎚スカイライン鉄入式行われる。(久松知事鉄入れ)

○六月、久万小学校集団赤痢発生患者五七人となる。

○六月、松垣伸郡長頌徳碑道路改修のため峠附近へ移転する。

○七月、国鉄バス特急車大型車となる。

○八月、柳谷村五段姫鶴平牧場へ、牛三〇頭放牧をはじめ。

○一〇月、国勢調査行われる。(全国人口九、八二七万四九六一人となる。久万町戸数三三五六、人口一二五六八人。)

○四月、農業構造改善事業開始明神地区七三〇枚の田を一三〇枚に整理五二戸稲作共業組合でできる。

○一二月、松山、森松間の鉄道廃止される。

○林業構造改善事業開始。

○久万町のバイパス一期工事完成。

○カセットテープレコーダー発売。

○朝永振一郎博士「ノーベル物理学賞」受賞。

○白ろう病を職業病に認定。

○面河ダム完工。

○美川スキー場にリフト完成。

○二月、久万町国道のバイパス完成する。

○三月、久万小学校校舎落成式挙行される。鉄筋二階建て一三三〇平方呎、工費三〇〇万円。(校長黒田英雄)

○三月、久万、川瀬、父二峰森林組合合併し、久万町

一九六六
昭和四一年

森林組合となる。(組合員二二〇〇人、出資金一億三〇〇〇万円初代組合長井部栄治就任)

○四月、久万ライオンズクラブ結成され発表する。(三三名、会長宇都宮利雄)

○国鉄バス特急、急行はバイパスを通ることになる。

○四月一七日、第一七回植樹祭が大久保で行われ、天皇皇后御来県、道後ふなや、宇和島天赦園へ泊られる。県内外から多数参列、盛大に終わる。

○五月、県下モーターバイク一〇万五四〇九台。(昭和三〇年の一〇倍となる)

自動車 一一万一〇三三台。(昭和三〇年の五倍となる)

交通事故 三一二件。(昭和三〇年の二倍となる。一〇万人当たり八・五人の死者となる。)

○七月、三坂ドライブイン落成する。(伊予鉄観光課程営)

○八月、久万ライオンズクラブ認証伝達式上高体育館で行われ、中四国地区会員四五〇余人参加し、盛大に行われる。(会長宇都宮利雄)

○九月、久万農機センター落成する。(曙町)

○九月、久万町戦没者慰霊祭執行される。(久万中体育館、神式、五一五柱)

○一〇月、四国ガンセンター松山国立病院内にできる。

○一〇月、下畑野川なべら地区二〇畝農業構造改善事業起工。(受益農家四三戸)

○このころ石鎚山頂附近のいしづちざさ開花し、実が

西暦	年号	事項
	昭和四二年	<p>なり枯れはじめ。</p> <p>○一月三日、全日空機松山飛行場沖三キロメートルに墜落、全員死亡する。(五〇名)</p> <p>○一月、体力づくり第一回町民体育大会久万グラウンドで行われる。</p> <p>○一二月、明神小学校開校五〇周年記念式典舉行される。</p> <p>○このころ、大川峰スキー場リフトできる。</p> <p>○一二月、植樹祭会場九谷村大久保に天皇歌碑除幕式行われる。</p> <p>○いざなぎ景氣始まる。</p> <p>○ひのえうまで出生率減少。</p> <p>○中国で文化大革命始まる。</p> <p>○一月、県知事選挙、久松知事当選四一万四五二票、投票率八一・四九%。(五選)</p> <p>○一月、入野館落成する。</p> <p>○二月、畑野川体育館落成する。(一、二七〇万円)</p> <p>○三月、NHK中継所越の峠近くにできる。(出力一〇W)</p> <p>○四月、国鉄久万駅久万町役場前三三号線沿いに完成落成式行われる。</p> <p>○四月、国鉄特急バス松山〜高知間一二回となり、三時間半にスピードアップされる。</p> <p>○五月、愛媛県松山県事務所久万庁舎落成式舉行される。</p>

西暦	年号	事項																		
		<p>る。久万保健所、久万土木事務所、中予福祉事務所、松山教育事務所久万分室、県出納室久万駐在、県事務所入所。</p> <p>○六月、NHK小田テレビ局開局総合五八、教育五五チャンネル。</p> <p>○六月、林道永子線完工式行われる。(上直瀬公民館)</p> <p>○六月、肉牛繁殖センター上直瀬西山地区にでき八〇頭放牧する。(四五枚)</p> <p>○七月一日、集中豪雨のため小田町大洪水二三戸全壊、水浸家屋多し、特に参川地区道路、水田被害大きく損害四億円をこす。</p> <p>○七月、上浮穴郡各地野ねずみ繁殖、被害面積三六〇〇畝に及びヘリコプターで大規模駆除剤散布する。</p> <p>○七月、三坂山モーター店開店する。</p> <p>○七月、久万図書館移動文庫こぼと号町内巡回をはじめる。</p> <p>○このころ郡内テレビ台数次のとおり(NHK聴取地図より)</p> <table border="1" data-bbox="178 1236 480 1748"> <tr> <td>久万町</td> <td>二、四七〇台</td> <td>七六・三%</td> </tr> <tr> <td>面河村</td> <td>四二九台</td> <td>四七・二%</td> </tr> <tr> <td>美川村</td> <td>七三三台</td> <td>四〇・八%</td> </tr> <tr> <td>柳谷村</td> <td>五五三台</td> <td>四五・四%</td> </tr> <tr> <td>小田町</td> <td>一、二四六台</td> <td>六三・八%</td> </tr> <tr> <td>松山市</td> <td>五五、一五九台</td> <td>六九・八%</td> </tr> </table>	久万町	二、四七〇台	七六・三%	面河村	四二九台	四七・二%	美川村	七三三台	四〇・八%	柳谷村	五五三台	四五・四%	小田町	一、二四六台	六三・八%	松山市	五五、一五九台	六九・八%
久万町	二、四七〇台	七六・三%																		
面河村	四二九台	四七・二%																		
美川村	七三三台	四〇・八%																		
柳谷村	五五三台	四五・四%																		
小田町	一、二四六台	六三・八%																		
松山市	五五、一五九台	六九・八%																		

・新 居 浜 二五、九〇二台 八一・〇％
 ・別子山村 一九〇台 三八・九％

○八月五日、国道三三三号線・三三二号線改良舗装工事全線完工、高知県庁において完工式挙行、四国四県知事他関係者集い祝賀式挙行される。久松知事出席。
 (高知松山間一九キロメートル一三六億八、〇〇〇万円を要す。)

○八月、久万町赤十字奉仕団結成、団員二六名。(団長横田重市)

○九月、久万電報電話局庁舎起工式行われる。(曙町)

○九月、久万町合併後第九回戦没者慰霊祭、久万中体育館で行われる。(英霊五一五柱、仏式、導師六名、戦没者名鑑完成、霊前に捧ぐ。)

○九月、国営道前道後平野農業水利事業完工式県民館で行われる。

起工以来一〇年、一〇八億円、農林省直轄工事、七〇〇名参列盛大に行われる。

○一〇月、落出新大橋できる。

○十一月、第一回久万町社会福祉大会久万小学校で行われる。

○十一月、直瀬小中プール落成する。(二五坪一六コーズ)

○このころ久万町消防団員三五〇人ガソリンポンプ三二台。

○一二月伊予鉄久万営業所新築落成、曙町営業所より久万中前に移転、営業開始。

一九六八
 昭和四十三年

○ビデオカメラ(デンスケ)登場。

○一月、昭和四十三年度成人式役場で行われる。成人者数二二八名。

○三月三十一日、白杵小学校中田渡小学校合併し、田渡小学校と改称する。

面河村笠方小学校浪草小学校に統合される。

○四月、明治百年記念植樹を行う。(樅之木町有林)

○七月二日、豪雨一七一ミリ、明神高山佐々木正好(三五歳)久万川に落ち死亡、下畑野川日野シノブ(四一歳)有枝川(エンマドウ川)に落ち流れ行方不明となり消防団出動。

○七月、参院選行われ堀本宣実当選する。

全国区で石原慎太郎三〇〇万票を超え当選する。

○このころ本郡人口は減少する。昭和三四年郡人口四万六八五〇人であったが九年間に一万四三九〇人減り約三〇％の人口流出となる。

住民の高齢化、農業後継者不足、地域生産機能の停滞の現象がおこる。

○八月、畑野小学校庭にあった上畑野川公民館中心部へ移転新築。

○八月、南海放送久万テレビ局開局する。(二〇W)

○九月、第二回久万町社会福祉大会、久万小学校で開催される。

○九月、浮穴史談会発展的解消し、久万郷土会発会する。(会員七三・会長光田繁光)

○一〇月、久万町合併後第一〇回戦没者慰霊祭久万中

西暦	年号	事項
一九六九	昭和四四年	<p>体育館で行われる。(英霊五一五柱、神式、奉仕者八名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一〇月、上浮穴郡し尿処理場起工式露峰現場で行われる。(工費四、四〇〇万円、一日処理能力一五、<small>キロト</small>ト) ○十一月三日、久万町合併一〇周年、明治一〇〇年記念式典挙行。(久万中) 一〇周年記念事業の久万町誌及び久万町一〇年のあゆみ刊行完成。 ○十一月、永子林道入札。 ○十一月、ライスセンター米倉庫落成式。 ○十一月、直瀬水道竣工式行われる。 ○十二月、二名小学校プール落成。 ○十二月、久万中学校プール落成。 ○この年ミニスカート流行。 ○三月、久万電報電話局ダイヤル式開局記念行事が行われた。 ○三月三〇日、全国青少年剣道大会で久万中学校が優勝した。 ○四月五日、三崎―佐賀関間の九四フェリー開通式。 ○四月、下辻、北村農村道竣工。 ○四月、土地改良事業、明杖、岩川水路竣工。 ○四月、畑野川簡易水道家屋引込工事竣工。 ○四月、低開発事業大寄竣工。 ○五月、本組林道竣工。

西暦	年号	事項
		<ul style="list-style-type: none"> ○五月、笛ヶ滝公園グランド拡張工事始まる。 ○五月一日、直瀬診療所に宇治原医師着任。 ○五月、丸井合織久万工場落成。 ○五月、屠殺場の閉場式と畜魂祭を行う。 ○五月、商家婦人対象健康調査を行う。 ○五月、し尿処理場落成。 ○六月、栄谷地区健康診断。 ○六月、林構調査、林野庁より来町。 ○六月、観光診断。(古岩屋にて) ○六月二二日、愛大法文本館を学生が封鎖、愛大学園紛争始まる。 ○七月八日、四国電力が伊方を原発候補地に決定。 ○七月、タイ、朝鮮より林業研究生が四名久万町の林業視察に来町。 ○七月二八日、伊方町議会が原発誘致を決議。 ○八月、夏季大学に講師として安西愛子氏を招く。聴衆約一、〇〇〇人。 ○八月、畑野川小学校プール落成。 ○八月一八日、夏の全国高校野球決勝戦で、松商が三沢高と延長一八回の死闘を演じた。 ○八月一九日、松商が昨日の延長引分けの再試合で優勝。 ○八月二二日、台風九号襲来。 ○九月、ナベラ地区農構落成。

- 九月二五日、愛大全学闘争委員会学生、学長室を占拠。
- 一〇月一日、久万山木材市場落成式並びに初市。
- 松山、今治両信用金庫が合併し、愛媛信用金庫が発足した。
- 一〇月、父野川林道起工。
- 一〇月、久万農協畑野川支所新築落成。
- 一〇月二一日、国際反戦デーで学生同盟などが松山商大本館を封鎖。
- 一〇月、下畑野川惣津ヶ谷林道起工。
- 一〇月、特別功労者として、田中、野村、篠浦氏表彰、竹内友長氏に紺綬褒章伝達式が行われた。
- 一〇月、大平通産大臣、来町。
- 一〇月、大西完信氏叙勲記念祝賀会が行われた。
- 一〇月、秋本氏農林大臣賞受賞記念祝賀会が行われた。
- 一〇月三日、愛大スト解除、二か月ぶりに授業再開。
- 一〇月、森信三先生を招へいし、講演会を開く。
- 一〇月、父野川林道竣工。
- 一〇月九日、父二峰旧役場焼失。
- 一〇月一〇日、ゴミ収集車到着。
- 愛媛放送（テレビ愛媛）が営業放送をはじめた。
- 一〇月、分譲宅地竣工検査。
- 一〇月、第三二回衆議院議員選挙、菅太郎、塩崎潤、関谷勝利当選。
- 一〇月一二日、愛大後期の授業を機動隊に守られて一

- 〇日ぶりに再開した。
- 一月、健康パトロール（ひまわり号）を県より受領した。
- 一月、峠御堂林道起工。
- 二月、農山村地域開発総合調査のため、愛媛大学、山口大学より来町。
- 二月、ライオンズクラブ、笛ヶ滝公園に国旗掲揚台寄贈。
- 二月、西の川水道竣工検査。
- 二月、二名地区テレビ受信施設落成。
- 二月、機動交通監視隊発会式行われる。
- 二月、総合教育研究会行われる。
- 三月、西の川水道及び農道竣工。
- 三月、第一回就職者激励会行われる。
- 三月、野尻児童遊園地竣工。
- 三月、畑野川簡易水道竣工。
- 三月三一日、内子線廃止により、四国最後のC12型姿を消す。
- 四月、西明神仰西橋落成。
- 五月、古岩屋観光開発のため現地調査実施。
- 五月、県の鳥にコマドリ決まる。
- 五月一二日、山口県で警官を刺傷した犯人が、瀬戸内海汽船「ぶりんす」を乗っ取る。
- 五月一四日、松山に「いよてつそごう」が発足。
- 六月、高野林道竣工。
- 六月、米の生産調整の会が、農協と産業界の間でも

西暦	年号	事項
		<p>たれた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○七月、峠御堂林道竣工。 ○七月、保健衛生推進委員制度を設け、初会合がもたれた。 ○七月一四日、赤痢保菌者発見、久万小学校と入野の一部を消毒。 ○七月、夏期成人講座開校。(本年より) ○七月、福祉学校開校。(本年より) ○八月六日、納涼まつり始まる。(第一日目は阿波おどり) 父二峰プール落成。(このプールで町内の全域にプールができた) ○八月七日、南海放送サンデー9の録画収録を笛ヶ滝公園にて行う。 ○八月二二日、台風一〇号、四国に上陸、松山を通過。瞬間最大風力三六・四呎を松山で記録。 ○九月一日、石鍵スカイライン開通。県立美術館オープン。帝人愛媛工場操業開始。 ○九月、畑野川へ一〇〇歳の老人表彰のため県より大西出納長来町。 ○九月、農協明神支所落成。 ○九月二五日、川之江、三島の製紙カス問題で、県が海水の汚染状況を公表。 ○一〇月、国勢調査、久万町総人口一万四八二人。(男
西暦	年号	事項
一九七二	昭和四六年	<p>五、〇〇五 女五、四七七)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一〇月、永久農道竣工。 ○一〇月、栄谷砂田橋竣工。 ○十一月、農協明神支所前に、田中執翁の頌徳碑建つ。 ○十一月、房代野林道竣工。 ○十一月二四日、野ねずみ防除のため、ヘリコプターで空中薬剤撒布を行う。 ○十二月、保護司会、宇都宮、西本両先生の紺綬褒章受賞祝賀会が行われた。 ○十二月、相原佐加雄氏農林大臣賞の受賞祝賀会。 ○十二月、県道美川く松山線開通落成。 <p>この年、マイカーが四世帯に一台といわれた。また多様な公害が問題化してきた。自動販売機があらわれたり、ウーマンリブ運動が行われたりした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一月、二名集会所落成。 ○一月、愛媛県知事選挙、白石春樹氏当選。白石県政スタート。 ○四月一日、松地下商店街オープン。 ○四月、町長選告示、日野泰氏以外立候補なし、日野氏四期目の当選。 ○四月、町議会議員選挙投票、即日開票。 ○五月、農業委員選挙行われる。 ○六月、ホームヘルパー制度実施、スタート。 ○六月、第九回参議院議員選挙投票、即日開票 増原

惠吉氏当選。

○六月、グレープフルーツ自由化。

○七月、韓国より視察団一二名来町。

○七月二五日、読売新聞社主催、全国学生キャンプ（31日）千本原にて開会、全国より約三〇〇名参加。

○八月、久万小学校プール落成。

○一〇月、四国電力、笛ヶ滝公園に水銀灯を寄贈。

○一〇月、石鎚スカイライン、瓶ヶ森林道と貫通。

○一〇月三〇日、上浮穴郡林業展開催。（久万林業まつり始まる）

○十一月、畑野川中学校の川口校長、校葬を行う。

○十一月、前久万町立病院長宇都宮利雄氏葬儀。

○十二月、光田繁光先生勲五等受賞祝賀会。

この年、森永砒素ミルク中毒事件に関連して、「森永ミルク中毒子どもを守る会」県本部が結成されている。また、上直瀬の三五町歩におよぶ圃場整備事業が行われた。

○一月八日、県庁二週三休制スタート。

○一月、愛媛大学に医学部設置決まる。

○一月二四日、グアム島で元陸軍軍曹、横井庄一氏が救出された。

○二月一九日、連合赤軍による浅間山山荘事件起きる。（二八日逮捕）

○二月二八日、住友金属鉱山、別子銅山の閉山を決める。

○三月、久万町議会、全国議長会より受彰祝賀会行わ

れる。

○四月、大峰林道竣工。

○四月一六日、松山空港ジェット機初就航。

○五月一五日、沖繩復帰祝賀のため午後休み。

○六月、直瀬、段組集会所落成。

○六月、町花、町木を選定。（ササユリ、杉）

○七月、田中角栄、総理大臣となる。

○七月二三日、台風九号襲来、国道三三三号線野尻より全面不通となる。

上直瀬で山くずれのため、民家三戸が危険となり、消防団出動。

○八月八日、町内小中学校、第一回の水泳大会が開かれた。

○八月、三笠宮、青年キャンプ視察のため、笛ヶ滝公園に来町。

○八月三〇日、ミュンヘン五輪で東予市出身の田口信教選手が百米平泳ぎで優勝。

○九月、日中国交回復。

○一〇月、久万町森林組合、新国道端に新築落成。

○一〇月、沖繩県国頭村議会議員団一五名、町政視察に来町。

○十一月一日、（二日）本年より地方祭を町内統一して同日に行うことにした。

○十一月、学校給食センター竣工し、落成式行われる。

○十二月、第三三回、衆院選挙、一区で湯山勇、関家勝利、塩崎潤当選。

一九七二
昭和四七年

西暦	年号	事項
一九七三	昭和四八年	<p>この年、土地ブームとさわがれ、燧灘で魚介類が酸素不足で大量に死ぬなど、公害問題が一層深刻な問題となった。また、スクールゾーンが設定された。</p> <p>○上直瀬の西山と大野地に大規模のたばこ団地が造成された。</p> <p>○二月一日、二名保育所ボヤさわぎ。</p> <p>○三月、古岩屋遊歩道竣工。</p> <p>○七月、久万農協合併、祝賀会。</p> <p>○八月、明神小学校プール落成。</p> <p>○九月、山神遺跡発掘調査始まる。(一二月末)</p> <p>○一〇月、町民館落成式行われる。</p> <p>○一〇月三〇日、町民館モデル結婚式(新郎山本寛治新婦土居こずえ)が行われた。</p> <p>○十一月五日、愛大医学部入学式。</p> <p>○一二月、ごみ収集車購入。</p> <p>○一二月、久万町商工婦人部結成式行われる。</p> <p>この年、第一次石油ショック(一〇月六日に始まった第四次中東戦争の影響による)のため、本四架橋工事が延期になった。また、インスタントラーメンの関係で「三分間待つのだぞ」ということばが流行した。直瀬にサラゲ団地の桑畑ができた。</p>
一九七四	昭和四九年	<p>○一月、国民宿舍古岩屋荘起工。</p> <p>○一月、石油危機により、松山市内のネオンが消えた。</p> <p>○三月一〇日、元陸軍少尉小野田寛郎ルパン島で救</p>

西暦	年号	事項
一九七五	昭和五〇年	<p>出される。</p> <p>○三月、古岩屋遊歩道竣工式行われる。</p> <p>○四月、県立松山西高校開校。</p> <p>○四月、柳井橋梁落成。</p> <p>○七月、第一〇回参院選挙、地方区青井政美氏当選。</p> <p>○八月、三坂峠にて松垣翁の慰霊法要行われる。</p> <p>○九月一日、台風一六号の襲来により災害対策本部を設置する。(一日の総雨量、一二七・五㎜)</p> <p>○九月、同和对策、同和教育組織結成及び研修会が行われた。</p> <p>○一〇月、読書グループ協議会結成並びに研修会が行われた。</p> <p>○十一月、県道久万内子線が国道に昇格。(三八〇号線と内定)</p> <p>○十一月、峠御堂隧道落成。(久万中にて)</p> <p>○十一月、久万高原トマト販売額二億円を突破。</p> <p>○一二月、三木内閣スタート。</p> <p>○一二月、国民宿舍古岩屋荘落成。</p> <p>○一二月、久万町壮年会結成。</p> <p>この年、石油ショックにより洗剤やティッシュペーパーの買いだめが行われた。また、超能力を持つ人が現れ、スプーンを曲げたりした。</p> <p>○一月、県知事選投票日、即日開票で白石春樹氏当選。</p> <p>○二月、学テ裁判、一〇年目の判決。</p>

一九七六	昭和五二年	<ul style="list-style-type: none"> ○二月二日、積雪四〇cm。 ○三月、古岩屋に不動尊安置される。 ○三月、国民宿舍古岩屋荘竣工。 ○四月、県議会議員選挙、小田慶孝氏当選。 ○四月、町長、町議選挙、河野修町長誕生。 ○六月、し尿処理場落成。 ○八月一七日、台風五号襲来。 ○八月、久万テニスクラブ結成。 ○八月、ベトナム留学生久万町農業視察。 ○一〇月一日、国勢調査、久万町の総人口九、三六四人（男四、四五六人、女四、九〇八人） ○一〇月、体力づくりの町として体力づくり協議会が内閣総理大臣表彰を受賞。 ○一〇月、直瀬診療所に韓国より医師赴任。 ○十一月、国道三七九号、三八〇号線の改良促進期成同盟会の総会が開かれた。 ○十二月一四日、久万町で初めてのオリエンテーリング大会が開催された。 ○十二月二三日、大野悦子さんアルゼンチンより一六年ぶりに帰郷。 この年、大気汚染や水質汚濁が大きな社会問題となった。 ○一月、久万町体育協会結成。 ○三月、県下の各学校に主任制度が実施された。 ○六月、父二峰中学校グラウンドにナイター照明完成点灯式行われる。
------	-------	---

一九七七	昭和五二年	<ul style="list-style-type: none"> ○七月、直瀬中学校に校訓碑完成除幕式行われる。 ○八月、久万ライオンズクラブ結成一〇周年記念式典挙行。 ○九月一〇日、台風一七号襲来。 ○九月、久万小学校体育館起工。 ○九月二六日、台風一九号襲来。 ○一〇月、愛大附属病院開院。 ○一〇月八日、直瀬小中学校で県へき地教育研究大会開かれる。 ○一〇月、商店街路灯入灯祝賀会。 ○十一月、天皇御座居五〇周年記念植樹。 ○十一月、特産品加工施設落成。 ○十二月、第三四回衆院選挙、一区で湯山勇、塩崎潤、関家勝利当選。 ○十二月、福田内閣誕生。 この年、ロッキード事件で大きく揺れた。また、県内の自動車は四〇万台を突破した。 ○一月、国道三八〇号線改修起工式行われる。 ○一月、辻堂（二名永久）ふるさと村へ譲受すること で協議行われる。 ○二月、猛烈な寒波がおそう。 ○二月一七日、伊方原発送電開始。 ○三月、下畑野川新開山にリンゴ苗六二本を定植した。 ○三月、久万町農家高齢者創作館竣工。 ○四月、中野村集会所落成。 ○四月一七日、久万町第一回還暦式行われる。
------	-------	---

西暦	年号	事項
		<ul style="list-style-type: none"> ○五月一〇日、毎月一〇日を体育の日に制定し、施行された。 ○五月、久万町グラウンド夜間照明施設が、県より優良照明施設として表彰を受けた。 ○五月、明神小学校、久万中学校、二名小学校に夜間照明施設完成。 ○六月、久万町文化協会結成式が行われた。 ○六月、春日台集会所落成式行わる。 ○七月三日、小田町議会、赤字再建団体を申請することを決議した。 ○七月、広域上浮穴消防署庁舎起工式行わる。 ○七月、参議院議員選挙。 ○七月、ふるさと村開村式行わる。 ○九月一二日、台風九号襲来。 ○九月二〇日、自衛隊久万公園造成工事着工。 ○九月、ライスセンター落成。 ○一〇月一二日、地方自治法施行三〇周年記念大会。 ○一〇月、ヘルステーション開設。 ○一二月、久万公園造成工事竣工祝賀会。 ○一二月、久万幼稚園舎竣工。 <p>この年、円高により、日本経済は深刻な問題となった。九月には、日本赤軍による日航機乗っ取り事件がダッカ空港で起こり、奥平純三ら九人を釈放すると共に一六億円の身代金を支払った。九月三日に</p>

西暦	年号	事項
一九七八	昭和五三年	<p>は、王選手がアーロンの生涯本塁打記録を破る七五六本塁打を達成した。野うさぎの被害も大きく、その対策に苦慮した年でもあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○二月、県道父二峰、中山線隧道完通。 ○三月、久万農協養蚕部久万支部が農林大臣賞を受賞し、その祝賀会が行われた。 ○三月、上浮穴消防署庁舎落成。 ○五月、自然休養村センター起工。 ○七月、峰越林道(房代野から川内へ出る線)トンネル起工。 ○八月、峰越林道トンネル貫通。 ○一〇月、久万町合併二〇周年記念誌出版。 ○十一月、久万町合併二〇周年記念式典。 ○十一月、峰越林道開通。 <p>この年、五月に成田空港が開港した。六月には宮城県沖でM七級の大地震が起こった。七月に英国で試験管ベビー誕生。一二月に大平内閣誕生。</p> <p>また、日米のオレンジ自由化をめぐり、県下のミカン農家は、大きな打撃を受けた。小田町では、財政再建をめぐり、国の財政再建団体指定を受けることとなる。円高不況による雇用不安やマツクイ虫による被害。サラ金による被害などが大きな社会問題となった年でもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一月、自然休養村センター落成。
一九七九	昭和五四年	

○四月、町長、町議選挙告示、河野修町長に対立候補なし。

○四月、町議選挙投票日。

○六月、井部栄治氏叙勲祝賀会

○六月、岡讓氏黄綬褒章受賞祝賀会。

○七月四日、自衛隊による運動公園造成作業始まる。

○一〇月、衆議院議員選挙。

○一〇月、畑野川中学校、緑の少年隊結成。

○一〇月、郡火葬場起工。

○十一月三〇日、国際児童年記念植樹。(≡苗ヶ滝)

この年、三月に米国のスリーマイル原発で事故が発生している。五月には本四連絡橋のトップを切つて大三島と伯方を結ぶ大三島橋が開通した。七月には旧海軍の戦闘機、紫電改が南宇和郡の久良湾で、三四年ぶりに引き揚げられた。一〇月には韓国の朴大統領が射殺され、一八年間に及んだ朴政権に終止符を打っている。このほか、オイルショックから、菊間町の太陽石油では、地下備蓄タンクのプラント建設を初めている。

一九八〇 昭和五五年

○一月、日野朝雄氏、毎日農業記録賞受賞祝賀会。

○二月、蚕繭能率経営競技会受賞祝賀会。

○三月、上畑野川公民館三〇周年記念式典。

○三月、上直瀬公民館三〇周年記念式典。

○四月、町立病院落成。

○六月、前教育長小椋秀雄氏勲五等双光旭日章受賞祝賀会。

○六月、衆参議院議員選挙投票日。

○七月一二日、直瀬小学校校長石丸雄二郎氏の教育委員
会葬。

○一〇月、上浮穴高等学校創立四〇周年記念式典。

○十一月、古岩屋に谷野予志の句碑が建ち除幕式が行われた。

この年、県内では、砥部に総合運動公園がオープンし、全国高等学校総体が、県下各会場で行われた。また、石鎚成就社では大火があり、本殿ほか一七棟が全焼した。国内では、大平首相が急逝し、鈴木内閣が誕生した。また、乱診乱療事件として、埼玉県で富士見産婦人科病院問題が発生したほか、自動車産業が世界一の生産量を誇るようになり、米との貿易摩擦の種になっている。長島や王がプロ野球から引退したのも、この年である。

一九八一 昭和五六年

○二月、明神小学校体育館落成。

○三月、町立病院長富田英明先生の町葬が行われた。

○三月二四日、面河村柚野の石墨小学校が閉校となり、閉校式が行われた。新年度より、石墨小学校区の児童は、直瀬小学校が受け入れることになった。

○五月、久万農協研修センター落成。

○五月、直瀬小学校に少年消防クラブが誕生した。町内で初めてである。

○九月、協和観光(久万カントリー)社長東進氏、紺綬褒章受賞。

○十一月、神野寅雄氏が社会教育に貢献した功績によ

西暦	年号	事項
一九八二	昭和五七年	<p>り、教育文化功労者賞を受賞した。</p> <p>○十一月、久万公園の高台に慰霊塔が完成し、戦没者の追悼式が行われた。</p> <p>○十一月、直瀬小学校（校長森岡敏）の創立百周年の記念行事が行われた。</p> <p>この年、県下では、子規記念博物館がオープンし、「えひめ、こども博」が開かれたりした。一方で、女子高校生の同級生刺殺事件や中学生による校内暴力などの風が吹き荒れた。国内では、北炭夕張新鉱でガスが突出し、九三人の犠牲者が出たが、京都大学工学部福井謙一教授のノーベル化学賞受賞のうれしいニュースもあった。</p> <p>○一月、石丸亨氏、林野庁長官賞受賞祝賀会が古岩屋荘で開かれた。</p> <p>○三月、菅生大橋落成。</p> <p>○四月、三坂に山頭火の句碑が建立され、除幕式が行われた。</p> <p>○四月、上浮穴養護老人ホーム落成。</p> <p>○四月、ふるさと村に大野静氏の句碑が建立され除幕式が行われた。</p> <p>○四月二三日、四国のみちが完成し、通り始めをした。</p> <p>○五月、無線放送施設事業竣工。</p> <p>○六月、日野泰前町長、勲四等瑞宝章、黒田英雄元久万小学校長勲五等双光旭日章受賞祝賀会が行われた。</p>

西暦	年号	事項
一九八三	昭和五八年	<p>○九月、久万公園に休憩所やテニスコートが完成した。</p> <p>○九月、三坂峠に「スキー発祥の地」の碑除幕式行われる。</p> <p>○九月、久万町民大運動会が開催された。（以降四年に一回開かれる）</p> <p>○九月一八日、ふるさと村リゾ園開園される。</p> <p>○九月、古岩屋に正岡子規の句碑が建立され除幕式が行われた。</p> <p>○一〇月一七日、第一回、久万少年剣道優勝大会が開かれた。</p> <p>○一〇月、大野盛直先生の句碑除幕式が行われた。</p> <p>○一二月、久万小学校北校舎落成。</p> <p>この年、県内では、西瀬戸経済圏構想が始動しはじめた。また、今治と松前に県立高校が開設されることになり、建築工事が始まった。国内では、鈴木内閣が退陣して、中曽根内閣が誕生した。また、羽田沖に日航機が墜落し、機長が精神病で強制入院させられた。</p> <p>○一月、愛媛県知事選挙、白石春樹氏四選を果たす。</p> <p>○一月、久万保育園舎落成。</p> <p>○二月、塩崎潤代議士大臣就任祝賀会が開かれた。</p> <p>○四月、畑野川農産加工施設落成。</p> <p>○四月、直瀬で中予稚蚕人工飼育センター落成式行われた。</p>

一九八四

昭和五九年

- 四月、愛媛県議会議員選挙、小田慶孝氏当选。
 - 四月、町長選挙告示、河野修氏当选。
 - 四月、久万町議会議員選挙。
 - 六月、参議院議員選挙、松垣徳太郎氏当选。
 - 七月、家族旅行村オープン記念式典行われる。
 - 八月、ふるさとの森事業が開始された。
 - 九月、久万公園の工事が完了した。
 - 一〇月、久万公園にB&G財団による海洋センターの起工式が行われた。
 - 十一月、直瀬の多目的研修会施設の起工式が行われた。
 - 一二月、久万高原トマト売上げ五億円突破の記念祝賀会が行われた。
 - 一二月、衆議院議員選挙。
- この年、郡内で高校生のいじめから発砲事件が起きた。県内では、八月の猛暑による水不足（三六日間無降水）騒ぎがあった。今治市では織田が浜埋立て反対運動がスタートした。国内では、五月に秋田沖地震があり、大津波により一〇四名の犠牲者がでた。忠生中学では、生徒に暴行を受けた教師が生徒を刃物で刺したり、横浜では、中学生一〇名が浮浪者を襲って殴り殺したりした事件が起きた。一方では、日本で初めて体外受精児が誕生した。
- 一月、露峰中組協同作業集会所落成。
 - 二月、野尻公民館三〇周年記念式典行われた。
 - 三月、明神幼稚園、明神小学校本館の落成式が行わ

一九八五

昭和六〇年

- 三月、久万公園にトリムランニングコースがオープンした。
 - 四月、ふるさと村に、家族旅行村施設が完成し、開村式が行われた。
 - 五月、久万町に壮年会が結成されて一〇年になるのを記念し、記念式典が行われた。
 - 五月、B&G財団久万海洋センター落成。
 - 六月、二名小学校屋内運動場起工。
 - 七月、上浮穴養護老人ホーム三〇周年記念式典。
 - 八月五日、久万町納涼祭、御用木まつり。
 - 一〇月、黒沢集会所落成。
 - 一二月、直瀬多目的研修会施設落成。
- この年、江崎グリーコ社長誘拐に始まる脅迫事件が発生した。また、千円、五千円、一万円の新札が発行された。
- 一月、久万高原トマト売上げ五億円突破祝賀会。
 - 一月、二名小学校屋内運動場落成。
 - 一月、真弓トンネル起工。
 - 三月、国民宿舎古岩屋荘一〇周年記念式典。
 - 三月、養蚕受賞祝賀会。
 - 三月、県読書活動地区集会在町民館で開催された。
 - 三月、久万町葉たばこ生産組合落成。
 - 四月、久万町観光協会設立発起人会が開かれた。
 - 四月、古岩屋不動尊開眼一〇周年記念式典。
 - 四月、久万公園に夜間照明施設が完成し点灯式が開

西暦	年号	事項
一九八六	昭和六一年	<p>催された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○四月、久万町観光協会設立総会。 ○五月、国際森林年記念植樹祭。 ○七月六日、土曜夜市始まる。 ○七月、久万造林創業七〇周年記念祝賀会。 ○九月、第一回四国スーパーエンデュロラリーが行われた。 ○一〇月一日、国勢調査実施。 ○一〇月、久万町母子寡婦福祉会発足三〇周年記念大会。 ○十一月、明神小学校夜間照明点灯。 <p>この年、羽田発大阪行きの日航ジャンボ機が群馬県の御巢鷹山に墜落し、乗員乗客五二〇名の犠牲者が出た。また、国内で初めてエイズ患者が出た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一月、畑野川幼稚園園舎落成。 ○二月、明神幼稚園・明神小学校、防火クラブ結成。 ○三月、久万体協一〇周年記念式典。 ○七月、衆・参両院同日選挙。 ○七月、久万町緑の少年隊結成。 ○八月、真弓隧道貫通。 ○九月八日、山之内正昭議長町葬。 ○一二月、若宮集会所竣工。 <p>この年、天皇在位六〇年の記念式典が催された。このほか、国内では三原山の大噴火があり、島民約</p>

西暦	年号	事項
一九八七	昭和六二年	<p>一万人が島を脱出するという騒ぎがあったり、社会党の党首に土井たか子氏が就任し、日本で初めて女性の党首が誕生した。国外では、米のスペースシャトル「チャレンジャー」が空中で炎上したり、ソ連でチェルノブイリ原発事故があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一月、保健センター落成。 ○一月、中核農業者協議会設立総会。 ○四月、トータルライフ二名宮森生活館落成。 ○四月、愛媛県議会議員選挙、小田慶孝氏当选。 ○四月、町長、町議選挙告示、町長に対立候補なく、河野修氏当选。 ○四月、町議会議員選挙。 ○四月、井部栄治氏 町葬。 ○八月、国際交流サマースクール、ムリバンジ共和国が由良野で開催された。 ○九月、畑野川小学校校舎起工。 ○一二月、美術館起工。 ○一二月、産業文化会館起工。 ○一二月、石丸亨氏と西岡忠義氏(故人)が林野庁長官賞受賞。 <p>この年、国鉄が分割・民営化され、J Rが誕生した。利根川進がノーベル医学生理学賞を受賞した。また、竹下内閣が誕生し、金権政治が大きな批判を受けた。国際的には、米ソが中距離核兵器(INF)</p>

一九八八	昭和六三年	<p>全廃条約に調印した年でもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○三月、久万中学校創立四〇周年記念式典。 ○四月、真弓トンネル開通。 ○八月、五日まで全国緑の少年隊交流会がふるさと村で開かれた。 ○八月、畑野川小学校校舎落成。 ○八月、ミニ「木」のフォーラム開催。 ○一〇月、上浮穴産業文化会館落成。 ○十一月二日、一三日まで「木」のフォーラム開催。 ○十一月、久万町合併三〇周年記念式典。 ○十二月、上浮穴産業文化会館へ美川村出身の正岡道一氏ブロンズ像を贈る。 <p>この年、国内では、青函トンネルが開通し、瀬戸大橋も開通した。政界ではリクルート疑惑で大揺れに揺れた。海外では、ソウル五輪が開催された。一方、上海では高知の高校生の修学旅行団の列車事故があった。</p>
------	-------	--

戦没者名簿

日清、日露戦役、シベリヤ出兵、日独戦争関係者

兵科官等	戦病死者氏名	死亡年月日	死亡の場所	地域名
陸軍近衛歩兵一等卒	梅本定吉	明治元年三月九日	久万町	露峰
陸軍歩兵一等卒	坂本富藏	同六年八月三日	広島陸軍予備病院	菅生
陸軍歩兵二等卒	谷口小八	同六年五月九日	清国大孤山	二名
陸軍歩兵一等卒	谷本治太郎	同六年四月六日	海城野戦病院	露峰
陸軍一等卒	深見国三郎	同六年七月八日	清国	久万町
陸軍歩兵一等卒	真鍋寅丸	同九年九月三日	台湾澎湖島陸軍衛戍病院	上野尻
陸軍歩兵二等卒	大野初之作	同三年六月六日	台湾台南	東明神
陸軍砲兵上等兵	相原団平	同三年二月二日	清国營務兵站病院	久万町
陸軍歩兵一等卒	石丸経太郎	同七年二月四日	清国大孤山野戦病院	東明神
陸軍歩兵軍曹	石水隼藏	同七年八月八日	旅順	菅生
陸軍歩兵上等兵	岩井林藏	同六年三月七日	清国盛京省	二名
陸軍歩兵二等卒	一柳徳太郎	同七年二月三日	清国遼陽	露峰
陸軍歩兵上等兵	植田松太郎	同七年八月三日	旅順	同
陸軍輜重輪卒	梅木春五郎	同六年九月五日	清国牛家屯	同
常陸丸石炭夫	大塚鶴太郎	同七年六月五日	玄海洋	同
陸軍歩兵上等兵	大野初次	同七年七月六日	旅順	直瀬
陸軍歩兵一等卒	大野惣作	同三年二月六日	旅順大白山	西明神
陸軍歩兵一等卒	小倉栄	同三年三月六日	東鶏冠山	菅生
陸軍歩兵軍曹	小田竹十郎	同六年三月一日	奉天	久万町

支那事変、大東亜戦争関係者

兵科官等	戦病死者氏名	死亡年月日	死亡の場所	地域名
陸軍歩兵一等卒	菅米八	明治七年二月三日	東鶏冠山	下野尻
陸軍歩兵一等卒	小山虎衛	同七年二月六日	東鶏冠山	久万町
陸軍歩兵一等卒	鈴木鐵太郎	同七年二月四日	清国盛京省兵站病院	東明神
陸軍歩兵二等卒	田中石太郎	同七年六月五日	玄海洋	二名
陸軍歩兵一等卒	友井石三郎	同七年二月九日	東鶏冠山	同
陸軍歩兵一等兵	林富士之助	同六年三月一日	満州石坑嶺	菅生
陸軍歩兵一等卒	日野紋藏	同六年三月五日	清国	川下畑野
陸軍輜重輪卒	村田馬次	同六年九月五日	清国盛京省长来窩善通寺	直瀬
陸軍騎兵二等卒	渡部浦太郎	同六年二月七日	善通寺	久万町
陸軍歩兵二等卒	渡部和太郎	同七年二月四日	清国青泥窪兵站病院	川上畑野
陸軍歩兵上等兵	中野道太郎	大九年一月三日	シベリアザルボンスク	父野川
陸軍歩兵上等兵	福下留吉	同九年七月八日	沿海州シコトワ村	二名
海軍上等機関兵曹	植本広吉	同七年	マニラ病院	川上畑野
海軍二等水兵	大野直義	昭二年七月三日	奄美大島沖	直瀬
海軍三等兵曹	田中吉猶	同三年三月三日	中華民国	川上畑野
兵科官等	戦病死者氏名	死亡年月日	死亡の場所	地域名
陸軍上等兵	相原栄	昭三年二月五日	マライ、ビドール	東明神
陸軍上等兵	小倉博	同三年五月七日	広東省曲江県	同

海軍機関兵長	村越俊雄	昭二〇年四月四日	比島	東明神
陸軍伍長	山之内義則	同二〇年六月六日	沖繩	同
陸軍伍長	山之内一雄	同二〇年六月六日	沖繩	同
陸軍軍曹	大野定夫	同二〇年九月六日	中華民國江蘇省	同
海軍少射	重藤繁藤	同二〇年六月四日	沖繩	同
陸軍兵長	正岡貞義	同八年二月六日	東部ニューギニア・マンバレー	同
陸軍上等兵	石丸忠廣	同八年九月八日	北京陸軍病院	同
陸軍兵長	宇都宮繁男	同九年二月〇日	比島	同
海軍一等水兵	宇都宮末市	同二〇年三月八日	東支那海	同
陸軍兵長	沖中照雄	同二〇年六月四日	南洋群島クサイ島	同
海軍二等兵曹	川崎末廣	同二〇年六月四日	沖繩	同
陸軍伍長	露口俊雄	同九年六月五日	中華民國浙江省	同
陸軍上等兵	若松玄一	同七年七月八日	滿州黑河省陸軍病院	同
海軍飛行兵曹長	渡部要	同二〇年三月六日	沖繩	同
海軍機関兵長	渡部義明	同九年三月六日	北太平洋	同
陸軍伍長	小池玉男	同二〇年〇月六日	滿州拉子	同
陸軍伍長	船本政市	同二〇年四月三日	ビルマカロー方面	同
陸軍上等兵	丸山猛志	同二〇年八月五日	比島ルソン島	同
陸軍兵長	丸山收	同七年三月三日	ニューギニア	同
陸軍上等兵	棟田定市	同四年二月〇日	善通寺陸軍病院	同
陸軍曹長	棟田達雄	同二〇年三月七日	ビルマ	同
陸軍飛行兵伍長	棟田寿一	同六年六月元日	水戸陸軍飛行学校	同
陸軍伍長	梅田昇	同八年九月三日	中華民國野戰病院	同
海軍軍屬	岡田憲一	同二〇年六月〇日	南洋群島トラック島	同
陸軍兵長	竹内正見	同二〇年七月〇日	フィリピン、ルソン島	同
海軍二等兵曹	山之内富一	同九年二月三日	台湾沖	同

海軍二等機関兵曹	宇都宮喜十郎	昭九年三月三日	フィリピン方面	東明神
海軍一等機関兵曹	宇都宮末隆	同九年〇月三日	フィリピン沖	同
陸軍兵長	大野照義	同二〇年六月八日	ビルマ	同
陸軍伍長	大野信久	同九年八月二日	ビルマ方面	同
陸軍兵長	大野滿義	同九年六月二日	ビルマ國ラング	同
勤勞報國隊殉職者	佐々木忠教	同七年三月三日	福岡県	同
陸軍上等兵	三木孟	同二〇年八月九日	中華民國	同
陸軍伍長	越智數男	同九年八月七日	ビルマ國	同
陸軍上等兵	石丸石造	同二〇年三月八日	鹿児島県西桜島	同
陸軍一等兵	大野宮男	同二年四月〇日	滿州鞍山	同
海軍一等機関兵曹	明神功	同九年七月五日	南洋群島	同
陸軍一等兵	明神龜一	同四年二月七日	ハルビン陸軍病院	同
陸軍兵長	大野肇	同九年七月七日	ビルマ	同
陸軍准尉	尾形幸三	同九年二月七日	東支那海	同
陸軍伍長	金子宇佐雄	同四年三月三日	中国湖北省	同
陸軍曹長	金子保	同八年五月四日	久万町	同
海軍主計兵長	金子勇	同二〇年五月二日	東部ニューギニア	同
陸軍上等兵	坂本秋雄	同三年八月〇日	中華民國	同
陸軍歩兵上等兵	石丸章	同二〇年二月〇日	ソ連イズベスト コイヤ病院	西明神
陸軍歩兵上等兵	石丸好明	同八年八月五日	滿州國、陸軍病院	同
海軍上等水兵	北岡文吉	同九年九月一日	南島島近海	同
陸軍一等兵	正岡巖	同六年七月四日	重信町、療養所	同
陸軍上等兵	久津岡守	同三年九月三日	中華民國	同
陸軍兵長	石丸孫市	同九年七月八日	サイパン島	同
陸軍兵長	山岡國泰	同九年四月五日	ニューギニア	同
陸軍兵長	和田安周	同二〇年七月〇日	フィリピン、ルソン島	同

兵科官等	戦病死者氏名	死亡年月日	死亡の場所	地域名
海軍上等兵曹	石岡 義雄	昭六年二月三日	ビスマーク群島方面	入野
陸軍伍長	河之内 善次郎	同〇年一月七日	フィリピン、ルソン島	同
陸軍兵長	新岡 定	同六年五月元日	アッツ島	同
陸軍伍長	新岡 留三郎	同八年九月元日	ビルマ、野戦病院	同
陸軍上等兵	東岡 登	同九年一月七日	国立愛媛療養所	同
陸軍一等兵	藤川 七郎	同四年三月四日	日赤松山病院	同
陸軍上等兵	松本 元市	同三年三月元日	ソ連・ペトロフスク病院	同
陸軍上等兵	森之本 竹市	同四年五月八日	中華民国、野戦病院	同
海軍軍属	森之本 只一	同〇年一月五日	ソロモン群島ブイン	同
陸軍軍曹	大野 芳博	同〇年九月六日	セレベス島	同
陸軍曹長	田中 眞一	同〇年八月三日	満州牡丹江地方	同
海軍上等水兵	田村 眞貫	同〇年七月六日	広島県方面	同
陸軍兵長	露口 隆己	同七年〇月三日	ニューギニアレマント山	同
陸軍上等兵	長井 重利	同三年七月六日	張家口方面	同
陸軍上等兵	松田 年高	同八年〇月元日	満州東滿綏省綏陽	同
陸軍伍長	鈴木 律太郎	同九年二月三日	ビルマ	同
陸軍兵長	東岡 茂	同九年二月六日	中華民国兵站病院	同
陸軍兵長	山崎 隆義	同九年九月九日	ビルマ方面	同
勤労報国隊員	木村 道雄	同七年三月三日	福岡県	同
陸軍伍長	田中 貞吉	同〇年三月三日	南方ルソン島	同
海軍兵曹長	日野 貞利	同九年七月八日	サイパン島	同
海軍二等兵曹	丸山 富雄	同九年八月〇日	グアム島	同
陸軍伍長	光田 数雄	同〇年七月二日	ビルマ	同
陸軍兵長	桑原 茂	同九年六月元日	鹿児島沖	久万町

兵科官等	戦病死者氏名	死亡年月日	死亡の場所	地域名
海軍水兵長	神野 典一	昭〇年二月六日	ソロモン島方面	久万町
陸軍兵長	高木 長雄	同〇年九月三日	フィリピン、ルソン島	同
陸軍伍長	竹内 渉	同九年九月三日	ビルマ方面	同
陸軍上等兵	藤本 昌一	同〇年一月二日	中華民国陸軍病院	同
陸軍伍長	宮岡 義隆	同〇年六月元日	フィリピン、ルソン島	同
陸軍伍長	森永 秀夫	同〇年七月七日	中華民国、兵站病院	同
海軍一等機関兵曹	渡部 一行	同〇年四月四日	朝鮮南方海面	同
陸軍軍医少佐	宇都宮 章	同九年九月三日	グアム島	同
陸軍軍曹	小田 範一	同二年九月六日	シペリア	同
陸軍伍長	金谷 正一	同九年二月七日	濟州島沖合	同
陸軍義勇隊員	村上 重之	同五年九月六日	満州国	同
海軍水兵長	阿部 一弘	同八年九月四日	ニューギニア	同
陸軍上等兵	石丸 為邦	同三年〇月〇日	中華民国	同
陸軍伍長	尾崎 清	同〇年八月五日	中華民国	同
海軍軍属	黒川 儀太郎	同〇年七月六日	フィリピン、ミランダナオ島	同
陸軍伍長	染次 正	同〇年六月八日	比島ルソン島	同
陸軍伍長	橋 政市	同〇年六月五日	比島レイテ	同
海軍二等兵曹	田中 守好	同九年〇月五日	フィリピン方面	同
海軍二等兵曹	中森 孝雄	同九年七月八日	サイパン島	同
海軍上等兵曹	中矢 清利	同九年八月九日	南支那海	同
陸軍兵長	西永 晴生	同九年七月二日	ビルマ	同
陸軍上等兵	正岡 新十郎	同三年二月九日	中華民国、野戦病院	同
陸軍上等兵	宮崎 強五郎	同八年二月四日	フィリピン、ルソン島	同
陸軍軍曹	八幡 茂行	同九年九月三日	南方マリヤナ群島	同

陸軍大尉	吉岡又次郎	昭〇年九月七日	フィリピン、ルソイ島	久万町
陸軍伍長	渡部誠一	同〇九年二月九日	比島、陸軍病院	同
陸軍曹長	西村昇	同〇九年六月四日	中支方面	同
陸軍曹長	乗松義章	同〇〇年五月五日	沖繩	同
陸軍上等兵	松垣春行	同〇〇年十月〇日	北支野戦病院	同
陸軍少尉	正木茂	同〇〇年六月〇日	沖繩	同
陸軍上等兵	山下茂男	同〇〇年二月五日	上海兵站病院	同
陸軍兵長	山下忠男	同〇八年六月五日	中支	同
陸軍伍長	川井亨	同〇九年六月四日	ビルマ	同
陸軍上等兵	小松力	同〇二年三月九日	中華民國	同
海軍軍属	住吉盛記	同〇〇年三月五日	フィリピン、ルソン島	同
海軍上等水兵	西崎茂太郎	同〇九年八月〇日	大宮島	同
陸軍上等兵	長谷川利幸	同〇七年二月四日	ソロモン海	同
海軍機関伍長	牧野邦弘	同〇〇年四月七日	フィリピン、セブ島	同
陸軍伍長	中平辰幸	同〇九年三月三日	マーシャル群島	同
陸軍兵長	石丸一雄	同〇〇年八月二日	東満牡丹江	上野尻
海軍一等機関兵曹	石丸喜三雄	同〇〇年八月一日	ビルマ国	同
海軍軍属	石丸義暉	同〇〇年十月七日	南方方面	同
陸軍伍長	石丸頼次郎	同〇〇年二月四日	フィリピン、ルソン島	同
陸軍伍長	加藤時廣	同〇九年五月九日	ビルマ	同
陸軍伍長	加藤英雄	同〇九年二月三日	ビルマ	同
陸軍一等兵	川崎高二	同〇六年三月三日	満州国陸軍病院	同
海軍兵曹長	川崎民三	同〇九年三月三日	南洋群島方面	同
陸軍曹長	清水正	同〇九年九月〇日	マリアナ群島	同
陸軍兵長	田中菊市	同〇〇年八月七日	ビルマ	同
陸軍伍長	田中友弘	同〇〇年三月六日	南洋群島	同

陸軍上等兵	辻實	昭三年二月二日	満州国、陸軍病院	上野尻
陸軍一等兵	堀内昇	同〇七年五月〇日	高知陸軍病院	同
陸軍兵長	目戸竹正	同〇〇年五月九日	フィリピン	同
陸軍上等兵曹	山本光行	同〇九年六月三日	南洋群島方面	同
陸軍兵長	八塚正道	同〇九年七月六日	ビルマ国	同
海軍上等水兵	石丸鉄三	同〇九年二月五日	佐世保海軍病院	同
海軍一等機関兵曹	奥村邦磨	同〇九年〇月〇日	西九州沖	同
陸軍兵長	下土居茂	同〇〇年三月〇日	広島陸軍病院	同
陸軍曹長	新家鶴吉	同〇八年一月八日	北海道帯広	同
陸軍曹長	橋本貞喬	同〇〇年六月七日	比島、ルソン島	同
陸軍伍長	日野涉	同〇〇年三月九日	南方セラム島	同
海軍一等飛行兵曹	福積稔	同〇〇年五月五日	南九州方面	同
陸軍伍長	真鍋廣雄	同〇〇年八月三日	満州半截河	同
海軍軍属	大野荒一	同〇〇年八月九日	南方カロン病院	同
陸軍軍曹	大野實	同〇九年九月〇日	グアム島	同
陸軍上等兵	亀崎武雄	同〇六年四月二日	ニューギニア	同
陸軍軍属	菅原貞一郎	同〇〇年六月〇日	マニラ東方山中	同
陸軍上等兵	菅原道直	同〇九年五月三日	印度、兵站病院	同
陸軍上等兵	久保富雄	同〇〇年六月〇日	中華民國、兵站病院	下野尻
陸軍伍長	西野良太郎	同〇〇年六月六日	フィリピン、ルソン島	同
陸軍曹長	渡辺高志	同〇九年二月八日	広西省	同
陸軍軍属	和泉修	同〇七年二月八日	マニラ沖	同
海軍兵曹長	秋本義雄	同〇九年〇月六日	フィリピン方面	養生
陸軍伍長	成川利男	同〇〇年八月七日	フィリピン	同
陸軍兵長	向井高繁	同〇〇年二月六日	越智郡木浦海岸	同
陸軍伍長	和泉貞政	同〇〇年七月三日	フィリピン、ネグロス島	同

兵科官等	戦病死者氏名	死亡年月日	死亡の場所	地域名
海軍兵曹長	白川種一	昭三〇年二月一日	ジャワ島方面	管生
陸軍兵長	安部吉高	同九年〇月一日	ビルマ方面	同
陸軍上等兵	大西徹五郎	同二年六月〇日	フィリピン、ミ ンダナオ島	同
陸軍兵長	小倉松太郎	同二年三月九日	善通寺陸軍病院	同
陸軍曹長	小西栄	同八年四月五日	ビルマ国	同
陸軍軍曹 (陸軍上等兵)	白川春秀	同九年八月三〇日	姫路陸軍病院	同
陸軍軍曹	高坂歳雄	同二年八月三日	比島ネグロス島	同
海軍一等兵曹	光田正	同九年三月九日	台湾北方海面	同
海軍二等兵曹	石丸岩雄	同九年〇月五日	フィリピン方面	同
海軍水兵長	井上春一	同二年八月二日	南九州方面の海上	同
海軍軍属	越智昇	同二年四月三日	フィリピン	同
海軍二等兵曹	小瀧英雄	同九年二月五日	フィリピン沖	同
陸軍兵長	高林頼光	同二年二月六日	フィリピン、セ ブ島	同
陸軍兵長	露口精一	同九年九月三日	中華民国	同
陸軍兵長	露口登	同二年七月三日	ビルマ国	同
陸軍伍長	山口仁英	同二年四月四日	カロリン諸島	同
陸軍軍属	山口仁英	同二年四月四日	沖繩本島	同
陸軍兵長	渡部貞次	同二年六月〇日	シペリア	同
陸軍上等兵	青浪沅	同二年二月五日	中華民国湖北省	同
陸軍兵長	青浪沅	同二年三月三日	鹿兒島県奄美大 島沖	同
陸軍兵長	露口好隆	同二年三月三日	満州チチハル陸 軍病院	同
陸軍伍長	日野茂俊	同四年〇月五日	軍病院	同
陸軍伍長	大野軍	同九年三月三日	フィリピン、レ イテ島	同
陸軍兵長	大野政宗	同二年九月三日	印度支那	同
海軍二等兵曹	大森義信	同九年六月八日	南洋群島方面	同

兵科官等	戦病死者氏名	死亡年月日	死亡の場所	地域名
陸軍兵長	森隆雄	昭九年四月九日	門司	管生
陸軍軍属	川井繁雄	同九年二月〇日	ジャワ島	同
海軍軍属	川井常雄	同二年六月四日	沖繩	同
陸軍技手	川井光友	同五年三月三日	満州国、陸軍病院	同
陸軍兵長	黒川亀男	同九年六月九日	徳之島沖	同
陸軍兵長	佐伯友一	同二年一月六日	満州国	同
陸軍伍長	津島数義	同四年三月三日	中華民国	同
陸軍伍長	津島時夫	同二年六月六日	沖繩	同
陸軍兵長	福岡繁雄	同七年九月五日	中支	同
陸軍伍長	藤原要	同九年九月三日	南洋群島グアム島	同
陸軍伍長	太田輝夫	同二年三月五日	ソ連コムリモリ スク中央病院	川上畑野
陸軍曹長	大野勝美	同八年七月三日	姫路	同
陸軍伍長	渡部勉	同九年三月三日	ビルマ	同
陸軍上等兵	渡部貞義	同四年八月四日	中華民国	同
陸軍上等兵	稲田富夫	同九年六月三日	ソロモン群島	同
陸軍兵長	上岡富美	同八年九月九日	中華民国	同
海軍上等機関兵曹	亀田秋福	同二年四月四日	台湾沖	同
海軍二等兵曹	高木惣二郎	同九年四月九日	印度洋	同
陸軍准尉	名智二夫	同九年六月三日	ニューギニア	同
海軍二等兵曹	藤原数美	同八年八月三日	ニューギニア海域	同
海軍二等兵曹	山内鐵太郎	同七年八月八日	ソロモン海戦	同
海軍少尉	山内俊夫	同二年〇月三日	国立病院	同
陸軍軍曹	渡部度身	同二年四月〇日	ルソン島	同
海軍少尉	石田建一	同二年二月三日	海南島海口	同

海軍兵長	石田 勉	昭〇年 四月 六日	南洋群島	川上 畑野
陸軍兵長	小倉 隆雄	同九年 五月 五日	ビルマ方面	同
陸軍兵長	高木 信光	同九年 九月 〇三日	マリアナ諸島	同
陸軍兵長	八塚 盛行	同九年 七月 九日	ビルマ国	同
海軍水兵長	渡部 識	同七年 三月 六日	西南太平洋方面	同
陸軍兵長	渡部 峰登	同七年 二月 九日	フィリピン、ルソン島	同
陸軍兵長	大野 喜平次	同九年 四月 八日	ビルマ国	同
陸軍伍長	尾花 定	同七年 七月 六日	旅順陸軍病院	同
陸軍伍長	西山 富福	同〇年 八月 四日	中支	同
海軍軍属	八塚 岩美	同八年 四月 七日	ニューギニア	同
陸軍衛生上等兵	八塚 順夫	同三年 一月 三日	中華民國	同
陸軍上等兵	小黒 定雄	同四年 三月 六日	中支野戰病院	川下 畑野
陸軍准尉	武市 巖	同八年 一月 四日	南洋群島	同
海軍水兵長	土居 正利	同九年 二月 三日	南支那海	同
海軍三等兵曹	日野 清	同七年 五月 五日	南太平洋	同
海軍水兵長	駄場 勉	同九年 三月 九日	台湾北方海面	同
海軍上等水兵	西山 清	同九年 二月 三日	南支那海	同
陸軍兵長	西山 文雄	同七年 八月 五日	中華民國漢口陸軍病院	同
陸軍上等兵	渡部 石晴	同〇年 〇月 六日	濟州島	同
陸軍曹長	渡部 石晴	同七年 二月 三日	東部ニューギニア	同
陸軍准尉	石田 晴正	同九年 二月 〇日	ニューギニア	同
陸軍一等兵	石丸 萩男	同七年 九月 七日	フィリピン、ルソン島	同
陸軍伍長	大野 薫	同九年 八月 七日	ビルマ方面	同
陸軍伍長	岡 仁	同〇年 〇月 二日	中華民國吉林省	同
陸軍兵長	片岡 盛雄	同八年 三月 三日	ニューギニア	同
陸軍軍曹	小崎 健二郎	同八年 五月 元日	アツツ島	同

陸軍准尉	田中 重己	昭〇年 四月 四日	松山歩兵二十二連隊	川下 畑野
陸軍上等兵	山崎 信義	同八年 二月 六日	善通寺陸軍病院	同
陸軍兵長	渡部 岩雄	同〇年 六月 六日	沖繩本島中座	同
陸軍上等兵	近藤 文吉	同九年 二月 七日	ビルマ	同
海軍三等兵曹	日野 岩應	同七年 九月 五日	南太平洋	同
海軍主計兵曹長	日野 林作	同九年 九月 七日	南洋群島ウオツセ島	同
陸軍一等兵	日野 百馬	同七年 五月 五日	畑野川	同
陸軍兵長	日之西 孝福	同八年 一月 五日	東部ニューギニア	同
陸軍少尉	日之西 重美	同〇年 六月 〇日	フィリピン、ルソン島	同
海軍上等兵曹	大木 昭	同九年 〇月 五日	南方方面	同
陸軍上等兵	日野 清美	同三年 九月 〇日	善通寺陸軍病院	同
陸軍伍長	日野 多久美	同〇年 六月 三日	沖繩本島山城	同
陸軍兵長	日野 正	同〇年 六月 〇日	フィリピン、レ	同
陸軍兵長	光田 寛	同〇年 七月 五日	フィリピン、レ	同
陸軍兵長	宮城 廣務	同〇年 七月 五日	フィリピン、レ	同
海軍水兵長	山之内 勲	同八年 二月 五日	マキンタラワ島	同
陸軍軍属	高橋 秀雄	同九年 〇月 五日	台湾近海	同
陸軍獸医中尉	小椋 正文	同二年 八月 六日	国立愛媛療養所	同
陸軍軍属	田中 春美	同九年 八月 九日	比島海域	同
陸軍兵長	松之本 常一	同九年 九月 三日	中支	同
陸軍上等兵	石丸 信一	同二年 五月 二日	日本海	直瀬
陸軍准尉	黒田 歳一	同九年 四月 三日	ニューギニア	同
陸軍上等兵	大野 正見	同三年 三月 四日	中華民國陽州	同
海軍上等整備兵	小川 定雄	同九年 四月 八日	南洋群島	同
陸軍兵長	長山 奎二	同六年 九月 四日	中華民國	同
陸軍上等兵	大野 勝一	同〇年 五月 〇日	中華民國	同

兵科官等	戦病死者氏名	死亡年月日	死亡の場所	地域名
陸軍兵長	大野 定夫	昭三〇年八月〇日	フィリピン、ルソン島	直瀬
陸軍上等兵	大野 孫吉	同三年二月七日	中華民國	同
陸軍上等兵	香川 一助	同三年二月六日	越智郡大島沖	同
陸軍伍長	坂本 勘次郎	同七年六月五日	中支浙江省	同
陸軍曹長	高岡 朝雄	同六年三月六日	旅順陸軍病院	同
陸軍曹長	高岡 貞雄	同九年六月三日	鹿児島沖	同
陸軍伍長	高岡 忠浩	同三年一月二日	シベリア	同
陸軍伍長	高岡 稔	同三年六月三日	ソビエトロシア ピーマン	同
陸軍伍長	長山 千代松	同二年五月九日	ハバロフスク	同
陸軍兵長	長山 博	同八年二月一日	虎林陸軍病院	同
陸軍衛生兵長	岩城 房次	同九年九月四日	西部ニューギニア	同
陸軍上等兵	大野 音市	同二年九月七日	中支野戦病院	同
陸軍伍長	大野 宮一	同二年六月六日	沖繩本島	同
陸軍伍長	小椋 隆夫	同二年五月三日	沖繩	同
陸軍兵長	小倉 盛正	同九年二月二日	ニューギニア	同
海軍一等兵曹	小黒 光友	同二年八月三日	フィリピン、ミ ンダナオ島	同
海軍二等水兵	加藤 清春	同七年九月二日	ソロモン海域	同
海軍上等水兵	菅 正弘	同九年十月五日	比島沖	同
陸軍上等兵	高岡 新	同九年七月二日	フィリピン、イ ロ市	同
陸軍上等兵	石丸 清二郎	同二年二月三日	中華民國武昌兵 站病院	同
陸軍上等兵	石丸 万丈	同五年八月三日	中華民國武昌野 戦病院	同
陸軍兵長	大野 今吉	同二年五月二日	沖繩	同
陸軍軍属	小倉 清志	同二年五月五日	フィリピン	同
陸軍上等兵	木山 太郎	同四年三月四日	北支野戦病院	同

兵科官等	戦病死者氏名	死亡年月日	死亡の場所	地域名
海軍軍属	宮岡 玉利	昭三〇年四月六日	フィリピン、セ ブ島	直瀬
陸軍一等兵	長谷川 春吉	同三年九月一日	中支長沙兵站病院	同
海軍 上等機関兵曹長	大野 伊勢吉	同九年二月三日	台湾沖	同
海軍二等兵曹	大野 保夫	同九年三月九日	台湾北方海域	同
陸軍航空整備伍長	小倉 繁雄	同三年三月三日	中華民國福建省	同
陸軍伍長	依岡 敏朗	同三年四月七日	ビルマ	同
陸軍上等兵	松本 美雄	同八年八月三日	トラック島	同
陸軍兵長	梅本 正雄	同九年九月六日	ビルマ国	同
陸軍水兵伍長	孔 宜	同九年二月六日	南洋群島方面	同
陸軍中尉	新二郎	同九年三月六日	レイテ島	同
海軍二等整備兵曹	菅 治男	同二年八月五日	フィリピン、ミ ンダナオ島	同
海軍飛行兵曹長	菅 文夫	同八年二月二日	南太平洋	同
陸軍兵長	光田 初次郎	同二年七月五日	ビルママンダレー	同
陸軍軍曹	脇本 茂	同二年二月六日	日本近海	同
陸軍上等兵	石崎 定光	同三年二月六日	中華民國	同
海軍二等兵曹	石崎 峯太郎	同九年七月八日	南洋群島	同
陸軍伍長	石崎 静雄	同九年九月三日	マリアナ群島	同
陸軍伍長	大野 磯長	同九年二月五日	中華民國湖南省	同
陸軍看護婦	光田 千鶴子	同二年八月六日	広島	同
海軍二等兵曹	渡辺 元美	同二年六月八日	スマトラ島近海	同
陸軍兵長	大野 茂利	同二年四月九日	クサイ島	同
陸軍兵長	菅 木芳	同八年一月八日	ニューギニア	同
陸軍伍長	曾我 音作	同九年九月二日	ビルマ	同
陸軍一等兵	松本 袈裟吉	同四年七月六日	北支那運城陸軍 病院	同

陸軍兵長	山下陸雄	昭十九年九月五日	滿州	二名
陸軍兵長	山下博	同八年一月三日	ニューギニア島	同
陸軍上等兵	稲田吉重	同九年七月六日	ニューギニア島	同
陸軍伍長	稲田和太一	同三年四月六日	ビルマ、ランダ ーン	同
陸軍兵長	植田保	同二年七月五日	フィリピン	同
陸軍軍曹	高須賀寅雄	同二年七月五日	ラングーン	同
海軍二等兵曹	石田博	同九年八月二日	南洋群島方面	同
陸軍兵長	山下領市	同二年七月五日	フィリピン、レ イテ島	同
陸軍伍長	杉本行重	同二年五月三日	沖繩	同
陸軍技術兵曹長	速水武雄	同三年七月二日	ソ連コムソメリ スク病院	同
海軍少尉	泉田司郎	同二年二月八日	マニラ湾	同
陸軍伍長	竹村唯義	同二年五月三日	ビルマ	同
陸軍兵長	成本幸太郎	同九年二月三日	ビルマ	同
陸軍兵長	林寅一	同七年三月二日	ハルビン陸軍病院	同
海軍軍属	山内清見	同八年八月六日	南洋群島方面	同
海軍二等衛生兵曹	土居君男	同二年六月二日	沖繩	同
海軍軍属	相原松雄	同二年七月八日	フィリピン	同
陸軍上等兵	菅原勲	同九年七月三日	ビルマ	同
海軍水兵長	中田長男	同二年六月二日	沖繩方面	同
海軍上等水兵	木村通春	同九年五月二日	ビスマルク群島	同
陸軍兵長	谷脇末廣	同二年七月七日	南洋クサイエ島	同
海軍上等兵曹	久保二士夫	同三年三月三日	重信町療養所	同
陸軍准尉	小松操	同九年九月三日	マリアナ諸島	同
陸軍伍長	谷口敏治	同九年七月四日	ビルマ国	同
陸軍上等兵	村上始	同四年二月六日	滿州	同
陸軍伍長	石丸止	同二年六月二日	沖繩本島	同

海軍航空一等兵曹	久保秀雄	昭二年三月五日	硝南島上空	二名
陸軍兵長	久保寿治	同九年八月七日	カロリン諸島	同
陸軍兵長	十川菊太郎	同二年三月二日	カロリン諸島	同
海軍航空准尉	土居勝弘	同九年六月七日	西部ニューギニア	同
海軍水兵長	土居末男	同二年七月六日	広島沖	同
陸軍准尉	土居通治	同七年五月八日	岩手県陸軍病院	同
陸軍兵長	土居正俊	同八年一月九日	東部ニューギニア	同
陸軍兵長	山内高治郎	同九年七月七日	ニューギニア	同
陸軍兵長	吉岡俊秋	同九年三月二日	フィリピン陸軍 病院	同
陸軍兵長	土居滿應	同二年七月一日	フィリピン、レ イテ島	同
陸軍伍長	中田温衛	同九年九月一日	ビルマ方面	同
陸軍上等兵	中村常雄	同二年八月三日	滿州國奉天市方面	同
陸軍兵長	水岡茂	同七年三月九日	ニューギニア	同
海軍二等兵曹	水岡福光	同九年二月七日	フィリピン方面	同
海軍三等整備兵曹	池田利一	同七年六月五日	東太平洋方面	露峰
陸軍伍長	大除秀雄	同九年九月三日	大宮島	同
陸軍伍長	坂本清三郎	同三年三月六日	北支山西省	同
陸軍伍長	白岡歌雄	同六年三月三日	中華民國江西省	同
海軍上等機関兵	丸山銀雄	同九年四月六日	山口県国立海軍 病院	同
陸軍伍長	丸山助市	同二年三月四日	滿州牡丹江省	同
海軍二等機関兵曹	桃枝倍枝	同九年五月八日	北太平洋	同
陸軍上等兵	桃枝久二	同二年八月二日	北滿州	同
陸軍伍長	井口恒義	同二年八月三日	ビルマ国	同
海軍整備兵長	小野浅尾	同二年六月二日	沖繩方面	同
陸軍衛生伍長	亀岡富一郎	同三年八月三日	浦口野戰病院	同
海軍二等兵曹	坂本喜重	同二年八月一日	ビルマ国	同

兵科官等	戦病死者氏名	死亡年月日	死亡の場所	地域名
海軍上等主計兵	坂本益重	昭三〇年一月六日	黄海方面	露峰
陸軍兵長	中野頼三郎	同九年三月八日	ニューブリテン島	同
陸軍上等兵	宮岡道安	同九年六月六日	マレー南島	同
陸軍伍長	露口勲一	同二年一月三日	仏領印度支那	同
陸軍兵長	中岡繁雄	同八年二月三日	中華民國	同
陸軍伍長	丸山末春	同三〇年五月五日	フィリピン	同
陸軍兵長	宇根岡秀雄	同九年三月六日	ビルマ	同
陸軍一等兵	坂本竹市	同七年九月七日	松山陸軍病院	同
海軍二等兵曹	谷口香	同八年二月六日	嬭野海軍病院	同
陸軍上等兵	中田誌馬吉	同三〇年八月〇日	広島陸軍病院	同
海軍二等兵曹	市川亀雄	同八年二月三〇日	ソロモン群島	同
陸軍伍長	久万川正寛	同三〇年六月八日	ベンガル湾	同
陸軍伍長	河野篤則	同七年二月九日	ニューギニア	同
海軍上等整備兵	坂本重儀	同九年〇月五日	フィリピン東方海面	同
海軍上等整備兵	榊井喜代重	同三〇年三月七日	鹿屋市海軍病院	同
陸軍上等兵	光田勝見	同八年六月四日	音戸病院	同
陸軍上等兵	光田宗義	同三〇年六月五日	フィリピン	同
陸軍伍長	三村正光	同三〇年六月〇日	フィリピン	同
陸軍伍長	宮崎潔	同九年〇月九日	ビルマ	同
海軍二等兵曹	渡部亀雄	同九年七月八日	南洋方面群島	同
海軍飛行兵曹長	上岡啓男	同九年六月三〇日	中部太平洋	父野川
海軍軍属	片岡雅志	同九年〇月五日	台湾海峡	同
海軍上等衛生兵	佐伯有一	同三〇年四月四日	フィリピン方面	同
海軍一等兵曹	大久保熊市	同九年二月五日	フィリピン	同

兵科官等	戦病死者氏名	死亡年月日	死亡の場所	地域名
青年義勇隊員	黒田進	昭六年三月六日	北安徽省	父野川
陸軍兵長	河野忠義	同九年二月六日	西部ニューギニア	同
陸軍兵長	高岡常一	同八年一月三日	ニューギニア島	同
陸軍軍曹	谷口利太郎	同八年五月九日	ビルマ国	同
陸軍兵長	井口高義	同三〇年六月〇日	フィリピン、ルソン島	同
陸軍衛生兵長	石井義光	同七年七月二日	善通寺陸軍病院	管外の
陸軍軍曹	石丸茂雄	同九年八月三日	ビルマ方面	同
陸軍上等兵	石丸雅	同九年六月九日	鹿児島県大島東海面	同
陸軍上等兵	石丸照政	同三年八月五日	中華民國江蘇省	同
陸軍歩兵伍長	石丸彌	同三年三月二日	上海病院	同
陸軍少尉	泉武雄	同九年二月四日	旅順陸軍病院	同
陸軍伍長	伊藤次衛	同三〇年五月七日	フィリピン	同
海軍二等兵曹	上野登	同三〇年二月五日	蘭印方面	同
陸軍少尉	宇根岡勝五郎	同三〇年四月三日	ルソン島	同
陸軍伍長	大田志計夫	同七年一月三日	ニューブリテン島	同
陸軍伍長	太田則光	同三〇年七月二日	ビルマ国	同
陸軍上等兵	大野梶清	同二年一月七日	朝鮮黄海道	同
陸軍兵長	大野亀春	同三年五月三日	国立松山病院	同
海軍少尉	大野銀栄	同三〇年五月三日	佐世保海兵团	同
海軍大尉	大野定元	同九年三月三日	比島沖	同
陸軍伍長	大野滋	同三〇年六月二日	フィリピン、ルソン島	同
陸軍兵長	大野隆造	同三〇年六月三〇日	比島	同
陸軍上等兵	大野禎一郎	同八年七月七日	ハルビン陸軍病院	同
陸軍伍長	大野敏夫	同九年三月二日	東部ニューギニア	同

陸軍上等兵	陸軍軍曹	陸軍水兵長	陸軍兵長	陸軍	陸軍伍長	陸軍准尉	海軍一等飛行兵曹	陸軍伍長	陸軍一等兵	陸軍上等兵	陸軍上等兵	陸軍上等兵	陸軍上等兵	陸軍上等兵	陸軍上等兵	陸軍上等兵	陸軍軍員	海軍軍員	陸軍伍長	陸軍伍長	海軍水兵長	陸軍看護婦	陸軍中尉	陸軍上等兵	海軍軍屬	陸軍上等兵
渡部春一	西野美宇良	東田敏一	日野修	弘岡鶴義	藤本實	船田登	正岡修	正岡駿	正岡為夫	正岡勝	松岡俊一	丸山好五郎	宮西政敏	山内清一	山内梅太郎	山内公夫	山内清数	山内利春	山内友市	山内タカ	山之内	山之内	山之内	山之内	若谷實	渡辺清一郎
同〇二年二月三日	昭〇三年三月四日	同〇二年一月四日	同〇二年七月四日	同〇二年三月七日	同〇二年六月〇日	同〇二年七月三日	同〇九年六月九日	同〇九年八月七日	同〇九年八月九日	同〇〇年三月〇日	同〇三年三月二日	同〇九年三月六日	同〇七年四月三日	同〇〇年九月二日	同〇九年三月四日	同〇〇年九月七日	同〇七年一月三日	同〇二年八月三日	同〇〇年六月四日	同〇八年四月九日	同〇九年五月四日	同〇九年一月三日	同〇九年一月三日	同〇九年一月三日	同〇九年一月三日	同〇〇年二月三日
ウランバートル	中華民國野戰病院	支那海	比島ルソン島	松山市道後	フィリピン、ルソン島	中華民國河南省	マリアナ諸島方面	ビルマ方面	パシー海峽	シベリア	中華民國湖南省	中華民國広西省	フィリピン、ルソン島	姫路陸軍病院	ソロモン群島方面	フィリピン	ビルマ国	ソ連シベリア	沖繩	松山陸軍病院	ニューギニア	第五四師団野戰病院	本州南方海面	同	同	
同	管外の	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	

陸軍兵長	陸軍上等兵	陸軍兵長	陸軍兵長
和田貢	日之西一	山下明好	和野一
昭〇二年六月三日	同〇九年八月三日	同〇〇年三月〇日	同〇〇年三月〇日
ビルマ国	ビルマ方面	比島ルソン島	比島ルソン島
管外の	同	同	同

あとがき

このたび、久万町合併三十周年の記念事業の一環として、「久万町誌」増補改訂版が発刊されることになりましたことは、まことに喜ばしいことであります。

今回発刊される町誌は、既刊（昭和四十三年）のものに、その後の二十年間の町の政治、経済、教育文化などの歩みを編集増補（追加）したものであります。

昭和四十三年からの二十年というのは、単なる暦年の二十年ではなく、国の内外にわたって文字通り、激動、変化、成長の二十年でありました。わが久万町におきましても、間近に迫った二十一世紀を指向しながら、有史以来、先人・先輩の築いた町づくりの確かな土台の上に立って、大いなる飛躍、進展の二十年であったと思います。

しかし、その間には、多くの課題と困難があり、それを克服し乗り越えるための苦しみと喜び、そして、美しく豊かな自然と人間の織りなすドラマがありました。

これらの歩みをたどり、そこで発揮された先輩、町民の知恵と情熱、血と汗で積み重ねられた業績の集大成を、永く後世に伝えることは、私たちの責務であると考え、合併三十周年という節目を期して、町誌の増補改訂版の発刊が計画された次第であります。

「歴史は鑑である」といわれております。町誌の意義、必要性は今更申し上げるまでもありませんが、さらに私は「愛は知ることによって始まり、より深まる」とも考えております。郷土を愛する心は、郷土を正しく知ることによって、ますます深まっていくものと思えます。そういう観点から、本誌の編集委員は、すべて町職員と町内の小中学校に勤務する教職員の方々にお願いしました。

本誌の編集にあたっては、先ず第一に史実（事実）に忠実であるよう心掛けました。編集委員の方々も、収集した資料の整合性、記録の信憑性などに留意しながら、調査、研究を重ね、各部門間の連絡、調整を密にさせていただきました。また、記述についても、文体や表現の統一、特に誤解を受ける恐れがあると思われるようなものは、でき得る限りの配慮をしましたが、決して完全なものではなく、

若干の問題点もあるのではないかと思います。

その事例の一つとして、本誌の記述の中に「部落」という用語が使われている箇所があります。これは今日、差別につながる表現として不適切な用語ではないかとの指摘を受けるのではないかと思います。決してそのような意味を含むものではありません。わが国の歴史的、社会的機構の中で、一般的に使用されてきました「比較的少数の家を構成する地縁的団体」、いわゆる集落の小単位としての呼称（組ともいう）を指すものであり、当時の社会機構や住民の生活実態を理解していただくために、やむを得ず使用したものであります。ここに、あえて付言し、ご理解をいただきたいと存じます。このようなものを含めて、資料や記録の不備など、内容的にも形式的にも、まだまだ今後に残された課題もあろうかとは思いますが、ご教示、ご指導をお願い申し上げます。

本誌の発刊が計画され、編集に着手しましてから、予想以上の月日が経過し、まことに申し訳けなく存じます。これは、先に申しましたように、編集委員がそれぞれに多忙な日常の公務に従事しながら、そのあい間や余暇を利用しての、資料の収集・整理・執筆・編集と、積極的なご努力をいただいた結果であり、ご理解を賜りますようお願い申し上げますと共に、各方面にいろいろと迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

ここにあらためて、編集委員をはじめ資料の提供などにご協力くださった各種関係機関、団体、多くの町内外関係者の方々はもとより、特に、本誌編集のため、原稿のとりまとめ、校正等、編集業務全般について、長い間ご尽力いただきました、田坂正教氏のご苦勞とご協力、また、ぎょうせいの本書出版にご尽力くださった方々、わけても山内昭司氏に対し、心からの敬意を表し、厚くお礼を申し上げます。

本誌発刊を機に、みどり豊かな自然と共生する高原の町、久万町が二十一世紀への新たな発展のよすが、町民連帯・協調の心のかけ橋になればと念じ、合わせて編集の不備を謝し、とりまとめのことばといたします。

平成元年十一月

編集副委員長
久万町教育委員会教育長
日野嘉彦

久万町誌増補改訂版編集委員名簿

委員長	河野 修 (久万町町長)	副委員長	松原 和良 (父二峰小学校校長)	委員	丸山 仁 (久万町役場町民福祉課課長)
副委員長	渡部鬼子雄 (久万町助役)	委員	黒田 一光 (明神小学校教頭)	〃	平岡新太郎 (上浮穴消防長)
〃	日野 義彦 (久万町教育長)	〃	武市 徹 (畑野川中学校教頭)	〃	岩城 岩夫 (久万町役場議事事務局長)
編集主任	田坂 正教 (社会教育指導員)	〃	猪上 哲史 (父二峰中学校教諭)	〃	浅井一郎治 (久万町役場総務課主幹)
第一編 自然	〃	〃	並松 真弓 (教育委員会主事)	〃	水谷 宏之 (久万町役場総務課次長)
部門長	清水 浩夫 (直瀬中学校校長)	第四編 産業経済	〃	〃	大嶋 洋一 (久万町役場総務課係長)
副部門長	竹田 弘幸 (直瀬中学校教頭)	部門長	玉水 壽清 (久万町役場産業課課長)	〃	中岡 登 (久万町役場建設課課長)
委員	石丸 常 (明神小学校教諭)	副部門長	宮脇 弘 (久万町立病院事務長)	〃	土居 明生 (二名小学校校長)
〃	新崎 英司 (久万中学校教諭)	委員	石丸 健一 (久万町役場林業課課長)	〃	大西 和章 (久万中学校教諭)
〃	日野 和也 (畑野川小学校教諭)	〃	中野 徹彦 (久万町役場町民福祉課主幹)	〃	野村 融 (久万小学校教諭)
〃	河野 勝利 (教育委員会主事)	〃	池野 允基 (久万町立病院総務課次長)	〃	山本 進 (教育委員会次長)
第二編 歴史	〃	〃	大野 昌利 (久万町役場建設課次長)	第六編 教育	佐伯 泰 (教育委員会主事)
部門長	団上 朝雄 (畑野川中学校校長)	〃	山本 寛治 (久万町役場産業課次長)	部門長	富田 豊 (久万中学校校長)
副部門長	中矢 勇喜 (父二峰中学校校長)	〃	竹本 輝明 (二名小学校教頭)	副部門長	森岡 春夫 (松山教育事務所久万分室長)
委員	相原 秋男 (畑野川小学校校長)	〃	竹内 重夫 (直瀬小学校教諭)	委員	大野 順広 (直瀬小学校校長)
〃	三浦 哲生 (久万小学校教頭)	〃	渡部 寿彦 (父二峰中学校教諭)	〃	皆川 亮一 (直瀬中学校教頭)
〃	猪上 達勇 (畑野川小学校教頭)	〃	岡田 隆綱 (教育委員会課長)	〃	大久保和美 (畑野川小学校教諭)
〃	石丸 勝利 (教育委員会係長)	〃	鈴木 正登 (教育委員会係長)	〃	森永 進 (教育委員会次長)
〃	小松真知子 (教育委員会主事)	第五編 行政・財政	〃	〃	窪田 正雄 (教育委員会係長)
第三編 民俗文化	〃	部門長	岡 作太郎 (久万町役場総務課課長)	〃	重川 利彦 (教育委員会派遣主事)
部門長	高岡 猛 (久万小学校校長)	副部門長	谷口伊三夫 (久万町役場生活課課長)	〃	木下 勝也 (教育委員会主事)
〃	〃	〃	〃	〃	佐藤トシ子 (教育委員会主事)

委員 田坂 正教 (社会教育指導員)

委員 住野 秀志 (久万中学校教諭)

第七編 人 物

校正

部門長 西田 友三 (明神小学校校長)

部門長 森岡 敏 (愛教研事務局次長)

副部門長 大野 文一 (直瀬小学校教頭)

副部門長 黒田 一光 (明神小学校教頭)

委員 三好 武親 (久万中学校教頭)

委員 松原 和良 (父二峰小学校校長)

川本 博文 (久万町役場
町民福祉課係長)

特別協力員 黒田 浩美 (久万小学校教諭)

黒田 浩美 (久万小学校教諭)

西森 勸 (久万農協組合長)

住野 秀志 (久万中学校教諭)

館野 義行 (久万農協専務)

八塚 裕子 (教育委員会幼稚園教諭)

関井 義弘 (久万町森林組合組合長)

部門長 中岡 登 (久万町役場建設課長)

高岡 文雄 (久万町森林組合専務)

副部門長 重川 利彦 (教育委員会派遣主事)

川崎 清規 (久万町社会福祉
協議会会長)

委員 玉泉 豊 (久万美術館主事)

土居 通昌 (元久万小学校校長)

石丸 勝利 (教育委員会係長)

宇都宮秀雄 (西谷小学校校長)

河野 勝利 (教育委員会主事)

浮田 幸路 (林業課主事)

木下 勝也 (教育委員会主事)

中森 信子 (町立病院主事)

橋本 広綱 (建設課係長)

大野百合恵 (教育委員会主事)

渡部 定明 (総務課主事)

大西 洋三 (教育委員会主事補)

上岡あゆみ (産業課主事)

美術

部門長 土居 明生 (二名小学校校長)

副部門長 大西 和章 (久万中学校教諭)

委員 野村 融 (久万小学校教諭)

参考図書一覧表

図書名		著者
日本百科大事典		小学館
日本植物図鑑		北隆館
日本動物図鑑		北隆館
愛媛県立博物館研究報告		県立博物館
愛媛の自然		愛媛県教育委員会
愛媛の自然		愛媛自然科学教室
面河溪・石鎚山深勝の葉		八木繁一
皿カ嶺連峰県立自然公園		愛媛県
科 学の泉		愛媛自然科学教室
名木をたづねて		八木繁一
愛媛の自然		八木繁一
愛媛県老樹名木図説		秋山英一郎
上浮穴主要植物分布図		八木正繁
上浮穴帰化植物の研究		土居正一
日本史年表		歴史学研究会編
大洲旧記		富永彦三郎
神社棟札・位牌		各神社・寺院
学 校 沼 革 史		各 学 校

愛媛県町村合併誌		愛媛県
愛媛誌概説上・下		愛媛県
上浮穴史		宇都宮吉
伊予史談		伊予史談会
愛媛県新誌		村上節太郎
久万町文化史年表		藤井周二
大野家年譜		藤井周一
伊予民俗		森正史
愛媛県編年史一、二、三、四		愛媛県史編集委員会 代表者三宅千代二
霜の夜		藤井周一
凶荒予備組合誌		伊藤義一
松山業談		松山藩
愛媛面影		半井梧庵
民俗資料調査の手びき		文化財保護委員会
愛媛の民俗		森正史
村と町むかしむかし		さくらだ・くらぶ
年中行事むかしむかし		さくらだ・くらぶ
農地改革史		県農地柘植課
上浮穴郡案内		小川薫水
商工會議事録		商工協会
協同組合辞典		家の光協会
久万山手鏡一・二		土居庄屋文書

愛媛県産業地誌	愛媛新聞八十年史	政治五十年紀	小林一茶寛政七年紀	河野盛衰物語	河野家文書	予州風雲録	松山城物語	郷土史大系	農林センサス	愛媛県概史	愛媛年鑑	伊予温故録	愛媛の市町村生活史	近世市民生活史	明治治生物語	戦後開拓史	新しい村づくりの方向	愛媛県農業史上・中	山村農業の実態	伊予史の研究
愛媛新聞社	愛媛新聞社	入交好樹	和田茂樹	玉井豊勉	景浦社	愛媛新聞社	玉井豊	田中歳雄	農林省統計調査部	愛媛新聞	愛媛新聞	宮脇通赫	伊藤藤義	児玉幸多	玉井豊	戦後開拓史編纂委員会	全国農山漁村振興協議会	愛媛県農務課	愛媛県農務課	景浦稚桃

浮穴郡久万山西明神村田方水帳	西明神村永代記	西明神村庄官所
地方教育行政の組織及び運営に関する法律	木田宏	西明神村庄官所
新制義務教育の十年	文部省	西明神村庄官所
久米村誌	久米公民館	西明神村庄官所
仕七川村誌	仕七川村	西明神村庄官所
愛媛大学地域社会総合研究報告書	愛媛大学	西明神村庄官所
城辺町誌	城辺町	西明神村庄官所
伊台村誌	伊台村	西明神村庄官所
内海村誌	内海村	西明神村庄官所
柳谷村誌	柳谷村	西明神村庄官所
小田町誌	小田町	西明神村庄官所
愛媛県史	愛媛県	西明神村庄官所
愛媛県史	愛媛県	西明神村庄官所
昭和二万日の全記録	講談社	西明神村庄官所
二万高原の文学と伝承	久野昭	西明神村庄官所
郷土と俳諧	久野昭	西明神村庄官所
現代地方自治全集18 地方税〔総論〕	浅野大三郎	西明神村庄官所
地方税制の基本的あり方に関する報告	財団法人地方財務協会	西明神村庄官所

和
曆
表

西曆	和 曆	干支	天 皇	西曆	和 曆	干支	天 皇	西曆	和 曆	干支	天 皇
1903	36	癸卯		1939	14	己卯		1975	50	乙卯	
1904	37	甲辰		1940	15	庚辰		1976	51	丙辰	
1905	38	乙巳		1941	16	辛巳		1977	52	丁巳	
1906	39	丙午		1942	17	壬午		1978	53	戊午	
1907	40	丁未		1943	18	癸未		1979	54	己未	
1908	41	戊申		1944	19	甲申		1980	55	庚申	
1909	42	己酉		1945	20	乙酉		1981	56	辛酉	
1910	43	庚戌		1946	21	丙戌		1982	57	壬戌	
1911	44	辛亥		1947	22	丁亥		1983	58	癸亥	
1912	大正 7.30	壬子	大 正	1948	23	戊子		1984	59	甲子	
1913	2	癸丑		1949	24	己丑		1985	60	乙丑	
1914	3	甲寅		1950	25	庚寅		1986	61	丙寅	
1915	4	乙卯		1951	26	辛卯		1987	62	丁卯	
1916	5	丙辰		1952	27	壬辰		1988	63	戊辰	
1917	6	丁巳		1953	28	癸巳		1989	平成 1. 8	己巳	今 上
1918	7	戊午		1954	29	甲午		1990	2	庚午	
1919	8	己未		1955	30	乙未		1991	3	辛未	
1920	9	庚申		1956	31	丙申		1992	4	壬申	
1921	10	辛酉		1957	32	丁酉		1993	5	癸酉	
1922	11	壬戌		1958	33	戊戌		1994	6	甲戌	
1923	12	癸亥		1959	34	己亥		1995	7	乙亥	
1924	13	甲子		1960	35	庚子					
1925	14	乙丑		1961	36	辛丑					
1926	昭和 12.25	丙寅	昭 和	1962	37	壬寅					
1927	2	丁卯		1963	38	癸卯					
1928	3	戊辰		1964	39	甲辰					
1929	4	己巳		1965	40	乙巳					
1930	5	庚午		1966	41	丙午					
1931	6	辛未		1967	42	丁未					
1932	7	壬申		1968	43	戊申					
1933	8	癸酉		1969	44	己酉					
1934	9	甲戌		1970	45	庚戌					
1935	10	乙亥		1971	46	辛亥					
1936	11	丙子		1972	47	壬子					
1937	12	丁丑		1973	48	癸丑					
1938	13	戊寅		1974	49	甲寅					

西曆	和 曆	干支	天 皇	西曆	和 曆	干支	天 皇	西曆	和 曆	干支	天 皇
1795	7	乙卯		1831	2	辛卯		1867	3	丁卯	明 治
1796	8	丙辰		1832	3	壬辰		1868	明治 9. 8	戊辰	
1797	9	丁巳		1833	4	癸巳		1869	2	己巳	
1798	10	戊午		1834	5	甲午		1870	3	庚午	
1799	11	己未		1835	6	乙未		1871	4	辛未	
1800	12	庚申		1836	7	丙申		1872	5	壬申	
1801	享和 2. 5	辛酉		1837	8	丁酉		1873	6	癸酉	
1802	2	壬戌		1838	9	戊戌		1874	7	甲戌	
1803	3	癸亥		1839	10	己亥		1875	8	乙亥	
1804	文化 2. 11	甲子		1840	11	庚子		1876	9	丙子	
1805	2	乙丑		1841	12	辛丑		1877	10	丁丑	
1806	3	丙寅		1842	13	壬寅		1878	11	戊寅	
1807	4	丁卯		1843	14	癸卯		1879	12	己卯	
1808	5	戊辰		1844	弘化 12. 2	甲辰		1880	13	庚辰	
1809	6	己巳		1845	2	乙巳		1881	14	辛巳	
1810	7	庚午		1846	3	丙午	孝 明	1882	15	壬午	
1811	8	辛未		1847	4	丁未		1883	16	癸未	
1812	9	壬申		1848	嘉永 2. 28	戊申		1884	17	甲申	
1813	10	癸酉		1849	2	己酉		1885	18	乙酉	
1814	11	甲戌		1850	3	庚戌		1886	19	丙戌	
1815	12	乙亥		1851	4	辛亥		1887	20	丁亥	
1816	13	丙子		1852	5	壬子		1888	21	戊子	
1817	14	丁丑	仁 孝	1853	6	癸丑		1889	22	己丑	
1818	文政 4. 22	戊寅		1854	安政 11. 27	甲寅		1890	23	庚寅	
1819	2	己卯		1855	2	乙卯		1891	24	辛卯	
1820	3	庚辰		1856	3	丙辰		1892	25	壬辰	
1821	4	辛巳		1857	4	丁巳		1893	26	癸巳	
1822	5	壬午		1858	5	戊午		1894	27	甲午	
1823	6	癸未		1859	6	己未		1895	28	乙未	
1824	7	甲申		1860	万延 3. 18	庚申		1896	29	丙申	
1825	8	乙酉		1861	文久 2. 19	辛酉		1897	30	丁酉	
1826	9	丙戌		1862	2	壬戌		1898	31	戊戌	
1827	10	丁亥		1863	3	癸亥		1899	32	己亥	
1828	11	戊子		1864	元治 2. 20	甲子		1900	33	庚子	
1829	12	己丑		1865	慶応 4. 7	乙丑		1901	34	辛丑	
1830	天保 12. 10	庚寅		1866	2	丙寅		1902	35	壬寅	

西曆	和 曆	干支	天 皇	西曆	和 曆	干支	天 皇	西曆	和 曆	干支	天 皇	
1687	4	丁卯	東 山	1723	8	癸卯	櫻 町	1759	9	己卯	後 桜 町	
1688	元禄 9.30	戊辰		1724	9	甲辰		1760	10	庚辰		
1689	2	己巳		1725	10	乙巳		1761	11	辛巳		
1690	3	庚午		1726	11	丙午		1762	12	壬午		
1691	4	辛未		1727	12	丁未		1763	13	癸未		
1692	5	壬申		1728	13	戊申		1764	明和 6. 2	甲申		
1693	6	癸酉		1729	14	己酉		1765	2	乙酉		
1694	7	甲戌		1730	15	庚戌		1766	3	丙戌		
1695	8	乙亥		1731	16	辛亥		1767	4	丁亥		
1696	9	丙子		1732	17	壬子		1768	5	戊子		
1697	10	丁丑		1733	18	癸丑		1769	6	己丑		
1698	11	戊寅		1734	19	甲寅		1770	7	庚寅		後 桃 園
1699	12	己卯		1735	20	乙卯		1771	8	辛卯		
1700	13	庚辰		1736	元文 4.28	丙辰		1772	安永 11.16	壬辰		
1701	14	辛巳		1737	2	丁巳		1773	2	癸巳		
1702	15	壬午		1738	3	戊午		1774	3	甲午		
1703	16	癸未	1739	4	己未	1775	4	乙未				
1704	宝永 3.13	甲申	1740	5	庚申	1776	5	丙申				
1705	2	乙酉	1741	寛保 2.27	辛酉	1777	6	丁酉				
1706	3	丙戌	1742	2	壬戌	1778	7	戊戌				
1707	4	丁亥	1743	3	癸亥	1779	8	己亥	光 格			
1708	5	戊子	1744	延享 2.21	甲子	1780	9	庚子				
1709	6	己丑	中 御 門	1745	2	乙丑	1781	天明 4. 2	辛丑			
1710	7	庚寅		1746	3	丙寅	1782	2	壬寅			
1711	正徳 4.25	辛卯		1747	4	丁卯	桃 園	1783	3	癸卯		
1712	2	壬辰		1748	寛延 7.12	戊辰		1784	4	甲辰		
1713	3	癸巳		1749	2	己巳	1785	5	乙巳			
1714	4	甲午		1750	3	庚午	1786	6	丙午			
1715	5	乙未		1751	宝暦 10.27	辛未	1787	7	丁未			
1716	享保 6.22	丙申		1752	2	壬申	1788	8	戊申			
1717	2	丁酉		1753	3	癸酉	1789	寛政 1.25	己酉			
1718	3	戊戌		1754	4	甲戌	1790	2	庚戌			
1719	4	己亥	1755	5	乙亥	1791	3	辛亥				
1720	5	庚子	1756	6	丙子	1792	4	壬子				
1721	6	辛丑	1757	7	丁丑	1793	5	癸丑				
1722	7	壬寅	1758	8	戊寅	1794	6	甲寅				

西曆	和曆	干支	天皇	西曆	和曆	干支	天皇	西曆	和曆	干支	天皇
1579	7	己卯		1615	元和 7.13	乙卯		1651	4	辛卯	
1580	8	庚辰		1616	2	丙辰		1652	承応 9.18	壬辰	
1581	9	辛巳		1617	3	丁巳		1653	2	癸巳	
1582	10	壬午		1618	4	戊午		1654	3	甲午	後西
1583	11	癸未		1619	5	己未		1655	明曆 4.13	乙未	
1584	12	甲申		1620	6	庚申		1656	2	丙申	
1585	13	乙酉		1621	7	辛酉		1657	3	丁酉	
1586	14	丙戌	後陽成	1622	8	壬戌		1658	万治 7.23	戊戌	
1587	15	丁亥		1623	9	癸亥		1659	2	己亥	
1588	16	戊子		1624	寛永 2.30	甲子		1660	3	庚子	
1589	17	己丑		1625	2	乙丑		1661	寛文 4.25	辛丑	
1590	18	庚寅		1626	3	丙寅		1662	2	壬寅	
1591	19	辛卯		1627	4	丁卯		1663	3	癸卯	靈元
1592	文禄 12. 8	壬辰		1628	5	戊辰		1664	4	甲辰	
1593	2	癸巳		1629	6	己巳	明正	1665	5	乙巳	
1594	3	甲午		1630	7	庚午		1666	6	丙午	
1595	4	乙未		1631	8	辛未		1667	7	丁未	
1596	慶長 10.27	丙申		1632	9	壬申		1668	8	戊申	
1597	2	丁酉		1633	10	癸酉		1669	9	己酉	
1598	3	戊戌		1634	11	甲戌		1670	10	庚戌	
1599	4	己亥		1635	12	乙亥		1671	11	辛亥	
1600	5	庚子		1636	13	丙子		1672	12	壬子	
1601	6	辛丑		1637	14	丁丑		1673	延宝 9.21	癸丑	
1602	7	壬寅		1638	15	戊寅		1674	2	甲寅	
1603	8	癸卯		1639	16	己卯		1675	3	乙卯	
1604	9	甲辰		1640	17	庚辰		1676	4	丙辰	
1605	10	乙巳		1641	18	辛巳		1677	5	丁巳	
1606	11	丙午		1642	19	壬午		1678	6	戊午	
1607	12	丁未		1643	20	癸未	後光明	1679	7	己未	
1608	13	戊申		1644	正保 12.16	甲申		1680	8	庚申	
1609	14	己酉		1645	2	乙酉		1681	天和 9.29	辛酉	
1610	15	庚戌		1646	3	丙戌		1682	2	壬戌	
1611	16	辛亥	後水尾	1647	4	丁亥		1683	3	癸亥	
1612	17	壬子		1648	慶安 2.15	戊子		1684	貞享 2.21	甲子	
1613	18	癸丑		1649	2	己丑		1685	2	乙丑	
1614	19	甲寅		1650	3	庚寅		1686	3	丙寅	

西曆	和曆	干支	天皇	西曆	和曆	干支	天皇	西曆	和曆	干支	天皇
1471	3	辛卯	後土御門	1507	4	丁卯		1543	12	癸卯	
1472	4	壬辰		1508	5	戊辰		1544	13	甲辰	
1473	5	癸巳		1509	6	己巳		1545	14	乙巳	
1474	6	甲午		1510	7	庚午		1546	15	丙午	
1475	7	乙未		1511	8	辛未		1547	16	丁未	
1476	8	丙申		1512	9	壬申		1548	17	戊申	
1477	9	丁酉		1513	10	癸酉		1549	18	己酉	
1478	10	戊戌		1514	11	甲戌		1550	19	庚戌	
1479	11	己亥		1515	12	乙亥		1551	20	辛亥	
1480	12	庚子		1516	13	丙子		1552	21	壬子	
1481	13	辛丑		1517	14	丁丑		1553	22	癸丑	
1482	14	壬寅		1518	15	戊寅		1554	23	甲寅	
1483	15	癸卯		1519	16	己卯		1555	弘治 10.23	乙卯	
1484	16	甲辰		1520	17	庚辰		1556	2	丙辰	
1485	17	乙巳		1521	大永 8.23	辛巳		1557	3	丁巳	正親町
1486	18	丙午		1522	2	壬午		1558	永祿 2.28	戊午	
1487	長享 7.20	丁未		1523	3	癸未		1559	2	己未	
1488	2	戊申		1524	4	甲申		1560	3	庚申	
1489	延徳 8.21	己酉	1525	5	乙酉		1561	4	辛酉		
1490	2	庚戌	1526	6	丙戌	後奈良	1562	5	壬戌		
1491	3	辛亥	1527	7	丁亥		1563	6	癸亥		
1492	明応 7.19	壬子	1528	享祿 8.20	戊子		1564	7	甲子		
1493	2	癸丑	1529	2	己丑		1565	8	乙丑		
1494	3	甲寅	1530	3	庚寅		1566	9	丙寅		
1495	4	乙卯	1531	4	辛卯		1567	10	丁卯		
1496	5	丙辰	1532	天文 7.29	壬辰		1568	11	戊辰		
1497	6	丁巳	1533	2	癸巳		1569	12	己巳		
1498	7	戊午	1534	3	甲午		1570	元龜 4.23	庚午		
1499	8	己未	1535	4	乙未		1571	2	辛未		
1500	9	庚申	1536	5	丙申	後柏原	1572	3	壬申		
1501	文龜 2.29	辛酉	1537	6	丁酉		1573	天正 7.28	癸酉		
1502	2	壬戌	1538	7	戊戌		1574	2	甲戌		
1503	3	癸亥	1539	8	己亥		1575	3	乙亥		
1504	永正 2.30	甲子	1540	9	庚子		1576	4	丙子		
1505	2	乙丑	1541	10	辛丑		1577	5	丁丑		
1506	3	丙寅	1542	11	壬寅		1578	6	戊寅		

西曆	和曆	干支	天皇	西曆	和曆	干支	天皇	西曆	和曆	干支	天皇
1363	18	2	癸卯	1399	6	己卯		1435	7	乙卯	
1364	19	3	甲辰	1400	7	庚辰		1436	8	丙辰	
1365	20	4	乙巳	1401	8	辛巳		1437	9	丁巳	
1366	21	5	丙午	1402	9	壬午		1438	10	戊午	
1367	22	6	丁未	1403	10	癸未		1439	11	己未	
1368	23	應安 2.18	戊申	1404	11	甲申		1440	12	庚申	
1369	24	2	己酉	1405	12	乙酉		1441	嘉吉 2.17	辛酉	
1370	建德 7.24	3	庚戌	1406	13	丙戌		1442	2	壬戌	
1371	2	4	辛亥	1407	14	丁亥		1443	3	癸亥	
1372	文中 4.	5	壬子	1408	15	戊子		1444	文安 2.5	甲子	
1373	2	6	癸丑	1409	16	己丑		1445	2	乙丑	
1374	3	7	甲寅	1410	17	庚寅		1446	3	丙寅	
1375	天授 5.27	永和 2.27	乙卯	1411	18	辛卯		1447	4	丁卯	
1376	2	2	丙辰	1412	19	壬辰	稱光	1448	5	戊辰	
1377	3	3	丁巳	1413	20	癸巳		1449	宝徳 7.28	己巳	
1378	4	4	戊午	1414	21	甲午		1450	2	庚午	
1379	5	康曆 3.22	己未	1415	22	乙未		1451	3	辛未	
1380	6	2	庚申	1416	23	丙申		1452	享徳 7.25	壬申	
1381	弘和 2.10	永徳 2.24	辛酉	1417	24	丁酉		1453	2	癸酉	
1382	2	2	壬戌	1418	25	戊戌		1454	3	甲戌	
1383	3	3	癸亥	1419	26	己亥		1455	康正 7.25	乙亥	
1384	元中 4.28	至徳 2.27	甲子	1420	27	庚子		1456	2	丙子	
1385	2	2	乙丑	1421	28	辛丑		1457	長祿 9.28	丁丑	
1386	3	3	丙寅	1422	29	壬寅		1458	2	戊寅	
1387	4	嘉慶 8.23	丁卯	1423	30	癸卯		1459	3	己卯	
1388	5	2	戊辰	1424	31	甲辰		1460	寛正 12.21	庚辰	
1389	6	康應 2.9	己巳	1425	32	乙巳		1461	2	辛巳	
1390	7	明德 3.26	庚午	1426	33	丙午		1462	3	壬午	
1391	8	2	辛未	1427	34	丁未		1463	4	癸未	
1392	9	3	壬申	1428	正長 4.27	戊申	後花園	1464	5	甲申	後土御門
1393	4	4	癸酉	1429	永享 9.5	己酉		1465	6	乙酉	
1394	應永 7.5	7.5	甲戌	1430	2	庚戌		1466	文正 2.28	丙戌	
1395	2	2	乙亥	1431	3	辛亥		1467	應仁 3.5	丁亥	
1396	3	3	丙子	1432	4	壬子		1468	2	戊子	
1397	4	4	丁丑	1433	5	癸丑		1469	文明 4.28	己丑	
1398	5	5	戊寅	1434	6	甲寅		1470	2	庚寅	

西曆	和曆	干支	天皇	西曆	和曆	干支	天皇	西曆	和曆	干支	天皇	
1255	7	乙卯		1291	4	辛卯		1327	2	丁卯		
1256	康元 10. 5	丙辰		1292	5	壬辰		1328	3	戊辰		
1257	正嘉 3. 14	丁巳		1293	永仁 8. 5	癸巳		1329	元徳 8. 29	己巳		
1258	2	戊午		1294	2	甲午		1330	2	庚午		
1259	正元 3. 26	己未	龜山	1295	3	乙未		1331	元弘 8. 9	辛未	光 嚴	
1260	文応 4. 13	庚申		1296	4	丙申		1332	2	壬申		
1261	弘長 2. 20	辛酉		1297	5	丁酉		1333	3	癸酉		
1262	2	壬戌		1298	6	戊戌	後伏見	1334	建武 1. 29	甲戌		
1263	3	癸亥		1299	正安 4. 25	己亥		1335	2 ^{北朝}	乙亥	光 明	
1264	文永 2. 28	甲子		1300	2	庚子		1336	延元 2. 29	丙子		
1265	2	乙丑		1301	3	辛丑	後二条	1337	2	丁丑		
1266	3	丙寅		1302	乾元 11. 21	壬寅		1338	3 曆応 8. 28	戊寅		
1267	4	丁卯		1303	嘉元 8. 5	癸卯		1339	4	己卯	光 明	
1268	5	戊辰		1304	2	甲辰		1340	興国 4. 28	庚辰		
1269	6	己巳		1305	3	乙巳		1341	2	辛巳		
1270	7	庚午		1306	徳治 12. 14	丙午		1342	3 康永 4. 27	壬午		
1271	8	辛未		1307	2	丁未		1343	4	癸未	後 明	
1272	9	壬申		1308	延慶 10. 9	戊申	花園	1344	5	甲申		
1273	10	癸酉		1309	2	己酉		1345	6 貞和 10. 21	乙酉		
1274	11	甲戌	後宇多	1310	3	庚戌		1346	正平 12. 8	丙戌		
1275	建治 4. 25	乙亥		1311	応長 4. 28	辛亥		1347	2	丁亥	崇 光	
1276	2	丙子		1312	正和 3. 20	壬子		1348	3	戊子		
1277	3	丁丑		1313	2	癸丑		1349	4	己丑		
1278	弘安 2. 29	戊寅		1314	3	甲寅		1350	5 観応 2. 27	庚寅		
1279	2	己卯		1315	4	乙卯		1351	6	辛卯	村 後	
1280	3	庚辰		1316	5	丙辰		1352	7 文和 9. 27	壬辰		
1281	4	辛巳		1317	文保 2. 3	丁巳		1353	8	癸巳		
1282	5	壬午		1318	2	戊午	後醍醐	1354	9	甲午		
1283	6	癸未		1319	元応 4. 28	己未		1355	10	乙未	後 上	
1284	7	甲申		1320	2	庚申		1356	11 延文 3. 28	丙申		
1285	8	乙酉		1321	元亨 2. 23	辛酉		1357	12	丁酉		
1286	9	丙戌		1322	2	壬戌		1358	13	戊戌		
1287	10	丁亥		1323	3	癸亥		1359	14	己亥	光	
1288	正応 4. 28	戊子	伏見	1324	正中 12. 9	甲子		1360	15	庚子		
1289	2	己丑		1325	2	乙丑		1361	16 康安 3. 29	辛丑		
1290	3	庚寅		1326	嘉曆 4. 26	丙寅		1362	17 貞治 9. 23	壬寅		

西曆	和 曆	干支	天 皇	西曆	和 曆	干支	天 皇	西曆	和 曆	干支	天 皇
1147	3	丁卯		1183	2	癸卯	後鳥羽	1219	承久 4.12	己卯	
1148	4	戊辰		1184	元曆 4.16 (寿 3 永)	甲辰		1220	2	庚辰	
1149	5	己巳		1185	文治 8.14 (寿 2 永)	乙巳		1221	3	辛巳	
1150	6	庚午		1186		丙午		1222	貞応 4.13	壬午	仲後堀恭河
1151	仁平 1.26	辛未		1187	3	丁未		1223	2	癸未	
1152	2	壬申		1188	4	戊申		1224	元仁 11.20	甲申	
1153	3	癸酉		1189	5	己酉		1225	嘉禄 4.20	乙酉	
1154	久寿 10.28	甲戌		1190	建久 4.11	庚戌		1226	2	丙戌	
1155	2	乙亥	後白河	1191	2	辛亥		1227	安貞 12.10	丁亥	
1156	保元 4.27	丙子		1192	3	壬子		1228	2	戊子	
1157	2	丁丑		1193	4	癸丑		1229	寛喜 3. 5	己丑	
1158	3	戊寅	二 条	1194	5	甲寅		1230	2	庚寅	
1159	平治 4.20	己卯		1195	6	乙卯		1231	3	辛卯	
1160	永曆 1.10	庚辰		1196	7	丙辰		1232	貞永 4. 2	壬辰	四 条
1161	応保 9. 4	辛巳		1197	8	丁巳		1233	天福 4.15	癸巳	
1162	2	壬午		1198	9	戊午	土御門	1234	文曆 11. 5	甲午	
1163	長寛 3.29	癸未		1199	正治 4.27	己未		1235	嘉禎 9.19	乙未	
1164	2	甲申		1200	2	庚申		1236	2	丙申	
1165	永万 6. 5	乙酉	六 条	1201	建仁 2.13	辛酉		1237	3	丁酉	
1166	仁安 8.27	丙戌		1202	2	壬戌		1238	曆仁 11.23	戊戌	
1167	2	丁亥		1203	3	癸亥		1239	延応 2. 7	己亥	
1168	3	戊子	高 倉	1204	元久 2.20	甲子		1240	仁治 7.16	庚子	
1169	嘉応 4. 8	己丑		1205	2	乙丑		1241	2	辛丑	
1170	2	庚寅		1206	建永 4.27	丙寅		1242	3	壬寅	後嵯峨
1171	承安 4.21	辛卯		1207	承元 10.25	丁卯		1243	寛治 2.26	癸卯	
1172	2	壬辰		1208	2	戊辰		1244	2	甲辰	
1173	3	癸巳		1209	3	己巳		1245	3	乙巳	
1174	4	甲午		1210	4	庚午	順 德	1246	4	丙午	後深草
1175	安元 7.28	乙未		1211	建曆 3. 9	辛未		1247	宝治 2.28	丁未	
1176	2	丙申		1212	2	壬申		1248	2	戊申	
1177	治承 8. 4	丁酉		1213	建保 12. 6	癸酉		1249	建長 3.18	己酉	
1178	2	戊戌		1214	2	甲戌		1250	2	庚戌	
1179	3	己亥		1215	3	乙亥		1251	3	辛亥	
1180	4	庚子	安 徳	1216	4	丙子		1252	4	壬子	
1181	養和 7.14	辛丑		1217	5	丁丑		1253	5	癸丑	
1182	寿永 5.27	壬寅		1218	6	戊寅		1254	6	甲寅	

西曆	和 曆	干支	天 皇	西曆	和 曆	干支	天 皇	西曆	和 曆	干支	天 皇
1039	3	己卯		1075	2	乙卯		1111	2	辛卯	
1040	長久 11.10	庚辰		1076	3	丙辰		1112	3	壬辰	
1041	2	辛巳		1077	承曆 11.17	丁巳		1113	永久 7.13	癸巳	崇 德
1042	3	壬午		1078	2	戊午		1114	2	甲午	
1043	4	癸未		1079	3	己未		1115	3	乙未	
1044	寬德 11.24	甲申		1080	4	庚申		1116	4	丙申	
1045	2	乙酉	後 冷 泉	1081	永保 2.10	辛酉		1117	5	丁酉	
1046	永承 4.14	丙戌		1082	2	壬戌		1118	元永 4. 3	戊戌	
1047	2	丁亥		1083	3	癸亥		1119	2	己亥	
1048	3	戊子		1084	応德 2. 7	甲子		1120	保安 4.10	庚子	
1049	4	己丑		1085	2	乙丑		1121	2	辛丑	
1050	5	庚寅		1086	3	丙寅	堀 河	1122	3	壬寅	
1051	6	辛卯		1087	寬治 4. 7	丁卯		1123	4	癸卯	
1052	7	壬辰		1088	2	戊辰		1124	天治 4. 3	甲辰	
1053	天喜 1.11	癸巳		1089	3	己巳		1125	2	乙巳	
1054	2	甲午		1090	4	庚午		1126	大治 1.22	丙午	
1055	3	乙未		1091	5	辛未		1127	2	丁未	
1056	4	丙申		1092	6	壬申		1128	3	戊申	
1057	5	丁酉		1093	7	癸酉		1129	4	己酉	
1058	康平 8.29	戊戌		1094	嘉保 12.15	甲戌		1130	5	庚戌	
1059	2	己亥		1095	2	乙亥		1131	天承 1.29	辛亥	
1060	3	庚子		1096	永長 12.17	丙子		1132	長承 8.11	壬子	
1061	4	辛丑		1097	承德 11.21	丁丑		1133	2	癸丑	
1062	5	壬寅		1098	2	戊寅		1134	3	甲寅	
1063	6	癸卯		1099	康和 8.28	己卯		1135	保延 4.27	乙卯	
1064	7	甲辰		1100	2	庚辰		1136	2	丙辰	
1065	治曆 8. 2	乙巳		1101	3	辛巳		1137	3	丁巳	
1066	2	丙午		1102	4	壬午		1138	4	戊午	
1067	3	丁未		1103	5	癸未		1139	5	己未	
1068	4	戊申	後 三 条	1104	長次 2.10	甲申		1140	6	庚申	
1069	延久 4.13	己酉		1105	2	乙酉		1141	永治 7.10	辛酉	近 衛
1070	2	庚戌		1106	嘉承 4. 9	丙戌		1142	康治 4.28	壬戌	
1071	3	辛亥		1107	2	丁亥	鳥 羽	1143	2	癸亥	
1072	4	壬子	白 河	1108	天仁 8. 3	戊子		1144	天養 2.23	甲子	
1073	5	癸丑		1109	2	己丑		1145	久安 7.22	乙丑	
1074	承保 8.23	甲寅		1110	天永 7.13	庚寅		1146	2	丙寅	

西曆	和 曆	干支	天 皇	西曆	和 曆	干支	天 皇	西曆	和 曆	干支	天 皇
931	承平 4.26	辛卯	朱 雀	967	4	丁卯	冷 泉	1003	5	癸卯	
932	2	壬辰		968	安和 8.13	戊辰		1004	寬弘 7.20	甲辰	
933	3	癸巳		969	2	己巳	円 融	1005	2	乙巳	
934	4	甲午		970	天祿 3.25	庚午		1006	3	丙午	
935	5	乙未		971	2	辛未		1007	4	丁未	
936	6	丙申		972	3	壬申		1008	5	戊申	
937	7	丁酉		973	天延 12.20	癸酉		1009	6	己酉	
938	天慶 5.22	戊戌		974	2	甲戌		1010	7	庚戌	
939	2	己亥		975	3	乙亥		1011	8	辛亥	三 条
940	3	庚子		976	貞元 7.13	丙子		1012	長和 12.25	壬子	
941	4	辛丑		977	2	丁丑		1013	2	癸丑	
942	5	壬寅		978	天元 11.29	戊寅		1014	3	甲寅	
943	6	癸卯		979	2	己卯		1015	4	乙卯	
944	7	甲辰		980	3	庚辰		1016	5	丙辰	後 一 条
945	8	乙巳		981	4	辛巳		1017	寬仁 4.23	丁巳	
946	9	丙午	村 上	982	5	壬午		1018	2	戊午	
947	天曆 4.22	丁未		983	永觀 4.15	癸未		1019	3	己未	
948	2	戊申		984	2	甲申	花 山	1020	4	庚申	
949	3	己酉		985	寬和 4.25	乙酉		1021	治安 2. 2	辛酉	
950	4	庚戌		986	2	丙戌	一 条	1022	2	壬戌	
951	5	辛亥		987	永延 4. 5	丁亥		1023	3	癸亥	
952	6	壬子		988	2	戊子		1024	万寿 7.13	甲子	
953	7	癸丑		989	永祚 8. 8	己丑		1025	2	乙丑	
954	8	甲寅		990	正曆 11. 7	庚寅		1026	3	丙寅	
955	9	乙卯		991	2	辛卯		1027	4	丁卯	
956	10	丙辰		992	3	壬辰		1028	長元 7.25	戊辰	
957	天德 10.27	丁巳		993	4	癸巳		1029	2	己巳	
958	2	戊午		994	5	甲午		1030	3	庚午	
959	3	己未		995	長德 2.22	乙未		1031	4	辛未	
960	4	庚申		996	2	丙申		1032	5	壬申	
961	応和 2.16	辛酉		997	3	丁酉		1033	6	癸酉	
962	2	壬戌		998	4	戊戌		1034	7	甲戌	
963	3	癸亥		999	長保 1.13	己亥		1035	8	乙亥	
964	康保 7.10	甲子		1000	2	庚子		1036	9	丙子	後 朱 雀
965	2	乙丑		1001	3	辛丑		1037	長曆 4.21	丁丑	
966	3	丙寅		1002	4	壬寅		1038	2	戊寅	

西曆	和曆	干支	天皇	西曆	和曆	干支	天皇	西曆	和曆	干支	天皇
823	14	癸卯	淳和	859	貞觀 4.15	己卯		895	7	乙卯	
824	天長 1.5	甲辰		860	2	庚辰		896	8	丙辰	
825	2	乙巳		861	3	辛巳		897	9	丁巳	
826	3	丙午		862	4	壬午		898	昌泰 4.26	戊午	
827	4	丁未		863	5	癸未		899	2	己未	
828	5	戊申		864	6	甲申		900	3	庚申	
829	6	己酉		865	7	乙酉		901	延喜 7.15	辛酉	醍醐
830	7	庚戌		866	8	丙戌		902	2	壬戌	
831	8	辛亥		867	9	丁亥		903	3	癸亥	
832	9	壬子		868	10	戊子		904	4	甲子	
833	10	癸丑	仁明	869	11	己丑		905	5	乙丑	
834	承和 1.3	甲寅		870	12	庚寅		906	6	丙寅	
835	2	乙卯		871	13	辛卯		907	7	丁卯	
836	3	丙辰		872	14	壬辰		908	8	戊辰	
837	4	丁巳		873	15	癸巳		909	9	己巳	
838	5	戊午		874	16	甲午		910	10	庚午	
839	6	己未		875	17	乙未		911	11	辛未	
840	7	庚申		876	18	丙申	陽成	912	12	壬申	
841	8	辛酉		877	元慶 4.16	丁酉		913	13	癸酉	
842	9	壬戌		878	2	戊戌		914	14	甲戌	
843	10	癸亥		879	3	己亥		915	15	乙亥	
844	11	甲子		880	4	庚子		916	16	丙子	
845	12	乙丑		881	5	辛丑		917	17	丁丑	
846	13	丙寅		882	6	壬寅		918	18	戊寅	
847	14	丁卯		883	7	癸卯		919	19	己卯	
848	嘉祥 6.13	戊辰		884	8	甲辰	光孝	920	20	庚辰	
849	2	己巳		885	仁和 2.21	乙巳		921	21	辛巳	
850	3	庚午	文德	886	2	丙午		922	22	壬午	
851	仁寿 4.28	辛未		887	3	丁未	宇多	923	延長 4.11	癸未	
852	2	壬申		888	4	戊申		924	2	甲申	
853	3	癸酉		889	寬平 4.27	己酉		925	3	乙酉	
854	齊衡 11.30	甲戌		890	2	庚戌		926	4	丙戌	
855	2	乙亥		891	3	辛亥		927	5	丁亥	
856	3	丙子		892	4	壬子		928	6	戊子	
857	天安 2.21	丁丑		893	5	癸丑		929	7	己丑	
858	2	戊寅	清和	894	6	甲寅		930	8	庚寅	朱雀

西曆	和曆	干支	天皇	西曆	和曆	干支	天皇	西曆	和曆	干支	天皇
715	靈龜 9. 2	乙卯	元 正	751	3	辛卯		787	6	丁卯	
716	2	丙辰		752	4	壬辰		788	7	戊辰	
717	養老 11.17	丁巳		753	5	癸巳		789	8	己巳	
718	2	戊午		754	6	甲午		790	9	庚午	
719	3	己未		755	7	乙未		791	10	辛未	
720	4	庚申		756	8	丙申		792	11	壬申	
721	5	辛酉		757	天寶字 平 8.15	丁酉		793	12	癸酉	
722	6	壬戌		758	2	戊戌	淳 仁	794	13	甲戌	
723	7	癸亥		759	3	己亥		795	14	乙亥	
724	神龜 2. 4	甲子	聖 武	760	4	庚子		796	15	丙子	
725	2	乙丑		761	5	辛丑		797	16	丁丑	
726	3	丙寅		762	6	壬寅		798	17	戊寅	
727	4	丁卯		763	7	癸卯		799	18	己卯	
728	5	戊辰		764	8	甲辰		800	19	庚辰	
729	天平 8. 5	己巳		765	天神 平 護	乙巳		801	20	辛巳	
730	2	庚午		766	2	丙午	稱 德	802	21	壬午	
731	3	辛未		767	神景 8.16 護雲	丁未		803	22	癸未	
732	4	壬申		768	2	戊申		804	23	甲申	
733	5	癸酉		769	3	己酉		805	24	乙酉	
734	6	甲戌		770	寶龜 10. 1	庚戌	光 仁	806	大同 5.18	丙戌	平 城
735	7	乙亥		771	2	辛亥		807	2	丁亥	
736	8	丙子		772	3	壬子		808	3	戊子	
737	9	丁丑		773	4	癸丑		809	4	己丑	嵯 峨
738	10	戊寅		774	5	甲寅		810	弘仁 9.19	庚寅	
739	11	己卯		775	6	乙卯		811	2	辛卯	
740	12	庚辰		776	7	丙辰		812	3	壬辰	
741	13	辛巳		777	8	丁巳		813	4	癸巳	
742	14	壬午		778	9	戊午		814	5	甲午	
743	15	癸未		779	10	己未		815	6	乙未	
744	16	甲申		780	11	庚申		816	7	丙申	
745	17	乙酉		781	天応 1. 1	辛酉	桓 武	817	8	丁酉	
746	18	丙戌		782	延曆 8.19	壬戌		818	9	戊戌	
747	19	丁亥		783	2	癸亥		819	10	己亥	
748	20	戊子		784	3	甲子		820	11	庚子	
749	天感寶 平 4.14	己丑	孝 謙	785	4	乙丑		821	12	辛丑	
750	勝寶 7. 2	庚寅		786	5	丙寅		822	13	壬寅	

西曆	和曆	干支	天皇	西曆	和曆	干支	天皇	西曆	和曆	干支	天皇
607	15	丁卯		643	2	癸卯		679	8	己卯	
608	16	戊辰		644	3	甲辰		680	9	庚辰	
609	17	己巳		645	大化 6.19	乙巳	孝 德	681	10	辛巳	
610	18	庚午		646	2	丙午		682	11	壬午	
611	19	辛未		647	3	丁未		683	12	癸未	
612	20	壬申		648	4	戊申		684	13	甲申	
613	21	癸酉		649	5	己酉		685	14	乙酉	
614	22	甲戌		650	白雉 2.15	庚戌		686	朱鳥 7.20	丙戌	持 統
615	23	乙亥		651	2	辛亥		687	持 統	丁亥	
616	24	丙子		652	3	壬子		688	2	戊子	
617	25	丁丑		653	4	癸丑		689	3	己丑	
618	26	戊寅		654	5	甲寅		690	4	庚寅	
619	27	己卯		655	齊 明	乙卯	齊 明	691	5	辛卯	
620	28	庚辰		656	2	丙辰		692	6	壬辰	
621	29	辛巳		657	3	丁巳		693	7	癸巳	
622	30	壬午		658	4	戊午		694	8	甲午	
623	31	癸未		659	5	己未		695	9	乙未	
624	32	甲申		660	6	庚申		696	10	丙申	
625	33	乙酉		661	7	辛酉		697	文 式	丁酉	文 式
626	34	丙戌		662	天 智	壬戌	天 智	698	2	戊戌	
627	35	丁亥		663	2	癸亥		699	3	己亥	
628	36	戊子		664	3	甲子		700	4	庚子	
629	舒 明	己丑	舒 明	665	4	乙丑		701	大宝 3.21	辛丑	
630	2	庚寅		666	5	丙寅		702	2	壬寅	
631	3	辛卯		667	6	丁卯		703	3	癸卯	
632	4	壬辰		668	7	戊辰		704	慶雲 5.10	甲辰	
633	5	癸巳		669	8	己巳		705	2	乙巳	
634	6	甲午		670	9	庚午		706	3	丙午	
635	7	乙未		671	10	辛未		707	4	丁未	元 明
636	8	丙申		672	弘天 文武	壬申	弘 文	708	和銅 1.11	戊申	
637	9	丁酉		673	2	癸酉	天 武	709	2	己酉	
638	10	戊戌		674	3	甲戌		710	3	庚戌	
639	11	己亥		675	4	乙亥		711	4	辛亥	
640	12	庚子		676	5	丙子		712	5	壬子	
641	13	辛丑		677	6	丁丑		713	6	癸丑	
642	皇 極	壬寅	皇 極	678	7	戊寅		714	7	甲寅	

西曆	和曆	干支	天皇	西曆	和曆	干支	天皇	西曆	和曆	干支	天皇
501		辛巳	欽明	536	宣 ^化 (欽明5)	丙辰	欽明	571	32	辛卯	
502		壬午		537	2 宣 ^化 (欽明6)	丁巳		572	敏 達	壬辰	
503		癸未		538	3 (欽明7)	戊午		573	2	癸巳	敏 達
504		甲申		539	4 (欽明8)	己未		574	3	甲午	
505		乙酉		540	欽 ^明 (欽明9)	庚申		575	4	乙未	
506		丙戌		541	2 (欽明10)	辛酉		576	5	丙申	
507	繼 體	丁亥		542	3	壬戌		577	6	丁酉	
508	2	戊子		543	4	癸亥		578	7	戊戌	
509	3	己丑		544	5	甲子		579	8	己亥	
510	4	庚寅		545	6	乙丑		580	9	庚子	
511	5	辛卯		546	7	丙寅		581	10	辛丑	
512	6	壬辰		547	8	丁卯		582	11	壬寅	
513	7	癸巳		548	9	戊辰		583	12	癸卯	
514	8	甲午		549	10	己巳		584	13	甲辰	
515	9	乙未		550	11	庚午		585	14	乙巳	
516	10	丙申		551	12	辛未		586	用 明	丙午	用 明
517	11	丁酉		552	13	壬申		587	2	丁未	
518	12	戊戌		553	14	癸酉		588	崇 峻	戊申	崇 峻
519	13	己亥		554	15	甲戌		589	2	己酉	
520	14	庚子		555	16	乙亥		590	3	庚戌	
521	15	辛丑		556	17	丙子		591	4	辛亥	
522	16	壬寅		557	18	丁丑		592	5	壬子	
523	17	癸卯		558	19	戊寅		593	推 古	癸丑	推 古
524	18	甲辰		559	20	己卯		594	2	甲寅	
525	19	乙巳		560	21	庚辰		595	3	乙卯	
526	20	丙午		561	22	辛巳		596	4	丙辰	
527	21	丁未		562	23	壬午		597	5	丁巳	
528	22	戊申		563	24	癸未		598	6	戊午	
529	23	己酉		564	25	甲申		599	7	己未	
530	24	庚戌		565	26	乙酉		600	8	庚申	
531	25	辛亥		566	27	丙戌		601	9	辛酉	
532	欽 明 1	壬子		567	28	丁亥		602	10	壬戌	
533	2	癸丑		568	29	戊子		603	11	癸亥	
534	安 閑 (欽明3)	甲寅		569	30	己丑		604	12	甲子	
535	2 (欽明4)	乙卯		570	31	庚寅		605	13	乙丑	
								606	14	丙寅	

平成元年一月 印刷発行

久万町誌増補改訂版（非売品）

編集 久万町誌編集委員会

編集委員長 河野 修

発行 上浮穴郡久万町

印刷 株式会社

古地圖 (菅生村)

小村大谷管全之図
林



